

# 座間市こども計画策定に係る ニーズ調査結果（速報）

令和 6 年 8 月  
座間市

# 目次

1	調査の概要.....	1
	（1）調査の目的.....	1
	（2）調査の対象と実施方法等.....	1
	（3）調査の回収結果.....	1
	（4）集計結果の見方.....	1
	（5）標本誤差.....	2
2	集計結果のポイントまとめ（速報）.....	4
3	主な設問の集計結果（速報）.....	6
	（1）未就学児の保護者調査.....	6
	（2）就学児（小学校1～3年生）の保護者及び本人調査.....	18
	（3）若者（15歳～29歳）調査.....	25
	（4）小学5年生調査.....	32
	（5）小学5年生の保護者調査.....	37

# 1 調査の概要

## (1) 調査の目的

本調査は、こども基本法第10条に基づく市町村こども計画として「座間市こども計画（令和7～11年度）」の策定を行うにあたり、子ども・子育て支援、若者育成支援、こどもの貧困対策に関する市民の現状や今後に対する要望・意見などを把握し、計画策定の基礎資料とすることを目的として実施したものです。

## (2) 調査の対象と実施方法等

本調査は、次の3種類、5つの対象に実施しました。

種類	対象	調査方法	期間
子ども・子育て支援事業計画のニーズ調査	未就学児の保護者	郵送案内・WEB回答 (e-kanagawa)	令和6年 5月30日(木) ～6月12日(水)
	就学児(小学校1～3年生)の保護者及び本人		
若者の意識及び実態の調査	若者(15歳～29歳)		
こどもの貧困の実態調査	小学5年生	郵送案内・WEB回答 (google フォーム)	令和6年 6月7日(金) ～17日(月)
	小学5年生の保護者	郵送案内・WEB回答 (e-kanagawa)	

## (3) 調査の回収結果

調査の回収結果（回答結果）は、次のとおりです。

種類	対象	配布数	回答数	回答率
子ども・子育て支援事業計画のニーズ調査	未就学児の保護者	1,800	362	20.1%
	就学児(小学校1～3年生)の保護者及び本人	1,500	416	27.7%
若者の意識及び実態の調査	若者(15歳～29歳)	1,500	191	12.7%
こどもの貧困の実態調査	小学5年生	1,023	233	22.8%
	小学5年生の保護者	1,023	274	26.8%
合計		6,846	1,476	21.6%

## (4) 集計結果の見方

- 令和6年8月現在の速報値であり、今後の本集計により若干数字が変動する可能性があります。
- 図の「n=〇〇〇」の数字は、各設問の総回答者数です。
- 図表は、原則として各設問の総回答者数に対する比率を表示しています。
- 各回答の比率は、小数点以下の四捨五入の関係で合計が100%にならない場合があります。
- 複数回答（あてはまるものすべてに○）の設問の集計結果は、各回答の比率を合計すると100%を超える場合があります。
- 図の凡例で「前回」とあるのは、平成30年実施の調査のことです（未就学児の保護者調査、就学児（小学校1～3年生）の保護者及び本人調査のみ）。

## (5) 標本誤差

全体（母集団）の中から一部を抽出して行う標本調査では、調査結果に差が生じることがあり、その誤差のことを標本誤差といい、その誤差を数学的に計算したのが、次の表です。

この表の見方としては、例えば、「ある設問中の選択肢の回答率が50%であった場合、その回答率の誤差の範囲は最高でも±4.2%以内（45.8%～54.2%）である」とみることができます。

- ◆ 信頼度90%（同一の調査を100回行えば90回まではこの結果になるであろうという推定）における標本誤差算出式

$$\varepsilon = 1.64 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \cdot \frac{p(1-p)}{n}}$$

- ◆ 母数は、令和6年4月1日住民基本台帳人口（小学5年生は10歳人口）

### 未就学児の保護者調査

母数	n 標本数	p 回答率	ε 標本誤差	測定値	信頼区間 の1/2幅	信頼区間
5,054人	362	50%	4.20	50%	±4.2%	45.8% ～ 54.2%
		45%	4.10	45% 55%	±4.1%	40.9% ～ 49.1% 50.9% ～ 59.1%
		40%	4.10	40% 60%	±4.1%	35.9% ～ 44.1% 55.9% ～ 64.1%
		35%	4.00	35% 65%	±4.0%	31.0% ～ 39.0% 61.0% ～ 69.0%
		30%	3.80	30% 70%	±3.8%	26.2% ～ 33.8% 66.2% ～ 73.8%
		25%	3.60	25% 75%	±3.6%	21.4% ～ 28.6% 71.4% ～ 78.6%
		20%	3.30	20% 80%	±3.3%	16.7% ～ 23.3% 76.7% ～ 83.3%
		15%	3.00	15% 85%	±3.0%	12.0% ～ 18.0% 82.0% ～ 88.0%
		10%	2.50	10% 90%	±2.5%	7.5% ～ 12.5% 87.5% ～ 92.5%
		5%	1.80	5% 95%	±1.8%	3.2% ～ 6.8% 93.2% ～ 96.8%

### 就学児（小学校1～3年生）の保護者及び本人調査

母数	n 標本数	p 回答率	ε 標本誤差	測定値	信頼区間 の1/2幅	信頼区間
3,005人	416	50%	3.70	50%	±3.7%	46.3% ～ 53.7%
		45%	3.70	45% 55%	±3.7%	41.3% ～ 48.7% 51.3% ～ 58.7%
		40%	3.70	40% 60%	±3.7%	36.3% ～ 43.7% 56.3% ～ 63.7%
		35%	3.60	35% 65%	±3.6%	31.4% ～ 38.6% 61.4% ～ 68.6%
		30%	3.40	30% 70%	±3.4%	26.6% ～ 33.4% 66.6% ～ 73.4%
		25%	3.20	25% 75%	±3.2%	21.8% ～ 28.2% 71.8% ～ 78.2%
		20%	3.00	20% 80%	±3.0%	17.0% ～ 23.0% 77.0% ～ 83.0%
		15%	2.70	15% 85%	±2.7%	12.3% ～ 17.7% 82.3% ～ 87.7%
		10%	2.20	10% 90%	±2.2%	7.8% ～ 12.2% 87.8% ～ 92.2%
		5%	1.60	5% 95%	±1.6%	3.4% ～ 6.6% 93.4% ～ 96.6%



若者(15歳～29歳) 調査

母数	n 標本数	p 回答率	$\varepsilon$ 標本誤差	測定値		信頼区間 の1/2幅	信頼区間	
19,218人	191	50%	5.90	50%		±5.9%	44.1% ～ 55.9%	
		45%	5.90	45%	55%	±5.9%	39.1% ～ 50.9%	49.1% ～ 60.9%
		40%	5.80	40%	60%	±5.8%	34.2% ～ 45.8%	54.2% ～ 65.8%
		35%	5.60	35%	65%	±5.6%	29.4% ～ 40.6%	59.4% ～ 70.6%
		30%	5.40	30%	70%	±5.4%	24.6% ～ 35.4%	64.6% ～ 75.4%
		25%	5.10	25%	75%	±5.1%	19.9% ～ 30.1%	69.9% ～ 80.1%
		20%	4.70	20%	80%	±4.7%	15.3% ～ 24.7%	75.3% ～ 84.7%
		15%	4.20	15%	85%	±4.2%	10.8% ～ 19.2%	80.8% ～ 89.2%
		10%	3.50	10%	90%	±3.5%	6.5% ～ 13.5%	86.5% ～ 93.5%
		5%	2.60	5%	95%	±2.6%	2.4% ～ 7.6%	92.4% ～ 97.6%

小学5年生調査

母数	n 標本数	p 回答率	$\varepsilon$ 標本誤差	測定値		信頼区間 の1/2幅	信頼区間	
1,023人	233	50%	4.70	50%		±4.7%	45.3% ～ 54.7%	
		45%	4.70	45%	55%	±4.7%	40.3% ～ 49.7%	50.3% ～ 59.7%
		40%	4.60	40%	60%	±4.6%	35.4% ～ 44.6%	55.4% ～ 64.6%
		35%	4.50	35%	65%	±4.5%	30.5% ～ 39.5%	60.5% ～ 69.5%
		30%	4.30	30%	70%	±4.3%	25.7% ～ 34.3%	65.7% ～ 74.3%
		25%	4.10	25%	75%	±4.1%	20.9% ～ 29.1%	70.9% ～ 79.1%
		20%	3.80	20%	80%	±3.8%	16.2% ～ 23.8%	76.2% ～ 83.8%
		15%	3.40	15%	85%	±3.4%	11.6% ～ 18.4%	81.6% ～ 88.4%
		10%	2.80	10%	90%	±2.8%	7.2% ～ 12.8%	87.2% ～ 92.8%
		5%	2.10	5%	95%	±2.1%	2.9% ～ 7.1%	92.9% ～ 97.1%

小学5年生の保護者調査

母数	n 標本数	p 回答率	$\varepsilon$ 標本誤差	測定値		信頼区間 の1/2幅	信頼区間	
1,023人	274	50%	4.20	50%		±4.2%	45.8% ～ 54.2%	
		45%	4.20	45%	55%	±4.2%	40.8% ～ 49.2%	50.8% ～ 59.2%
		40%	4.20	40%	60%	±4.2%	35.8% ～ 44.2%	55.8% ～ 64.2%
		35%	4.00	35%	65%	±4.0%	31.0% ～ 39.0%	61.0% ～ 69.0%
		30%	3.90	30%	70%	±3.9%	26.1% ～ 33.9%	66.1% ～ 73.9%
		25%	3.70	25%	75%	±3.7%	21.3% ～ 28.7%	71.3% ～ 78.7%
		20%	3.40	20%	80%	±3.4%	16.6% ～ 23.4%	76.6% ～ 83.4%
		15%	3.00	15%	85%	±3.0%	12.0% ～ 18.0%	82.0% ～ 88.0%
		10%	2.50	10%	90%	±2.5%	7.5% ～ 12.5%	87.5% ～ 92.5%
		5%	1.80	5%	95%	±1.8%	3.2% ～ 6.8%	93.2% ～ 96.8%

## 2 集計結果のポイントまとめ（速報）

### （1）未就学児の保護者調査

- 子育てにおける男女共同参画（男性の参画）が進行しています。【6ページ③、7ページ④】
- 子育てに関して気軽に相談できる人・場所が「いない／ない」と回答した保護者が増えています。【8ページ⑦】
- フルタイムで就労している母親が増加しており、保育ニーズ拡大への対応や仕事と家庭の両立支援制度の充実が求められています。【9ページ⑧】
- 病児・病後児保育のニーズが縮小しています。【12ページ⑩】
- 「ネウボラざまりん（子育て世代包括支援センター）」の認知度が拡大しています。【13ページ⑬】
- 放課後の過ごし方として、「児童ホーム」のニーズが拡大している一方、「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」のニーズの縮小しています。【14ページ⑭】
- 座間市の子育ての環境や支援への満足度はほぼ横ばいですが、「公園など子どもの遊び場が充実している」ことについての評価は上がっています。【15ページ⑮】
- 未就学児童の保護者における、座間市の子育ての環境や支援に満足していない理由の上位2つは、「子育て支援サービスが充実していない」、「幼稚園や保育園などが不足している」ことです。【16ページ⑯】
- 今後力を入れていくべき子ども・子育て支援策として、「子育てに関する経済的支援の充実」に対するニーズが拡大しています。【17ページ⑰】

### （2）就学児（小学校1～3年生）の保護者及び本人調査

- 子育てにおける男女共同参画（男性の参画）が進行しています。【18ページ③】
- 放課後の過ごし方として、「児童ホーム」や「放課後子ども教室」のニーズが拡大しています。【20ページ⑦】
- 座間市の子育ての環境や支援への満足度はほぼ横ばいですが、「公園など子供の遊び場が充実している」ことについての評価は上がっています。【21ページ⑧】
- 今後力を入れていくべき子ども・子育て支援策として、「子育てに関する経済的支援の充実」に対するニーズが拡大しています。【23ページ⑨】
- 低学年（1～3年生）の子供本人の生活満足度について「とても楽しい」と「楽しい」と回答した割合は、放課後の時間が93.2%、今の生活（遊びや勉強）全般が94.0%です。【24ページ⑩】

### （3）若者（15歳～29歳）

- 15～29歳の若者のうち、自分の将来について「希望がある」と「どちらかといえば希望がある」と回答した人の割合は約7割（69.1%）です。【27ページ⑥】
- 15～29歳の若者のうち、外出頻度が低い状態にあり、その期間が「6か月以上」という割合が6.3%で、外出頻度が低い状態となった年齢は「25～29歳」が最も高くなっています。【28ページ⑦】
- 15～29歳の若者が現在抱えている悩みや困りごとは、「今後の進路や将来に関すること」が62.7%と最上位です。【29ページ⑧】
- 15～29歳の若者の座間市での生活の満足度は、「満足している」と「やや満足している」を合わせた肯定的な評価（44.0%）が、否定的な評価（14.1%）を上回っており、肯定的な評価の理由の最上位は「買い物などの日常生活が便利である」ことです。【30ページ⑩】

#### (4) 小学5年生調査

- 小学5年生について、学校の授業がわからなくなった時期として最も多いのが「4年生のころ」です。【32ページ②】
- 最近の生活の満足度は、小学5年生本人と保護者に大きな差（本人は比較的高く、保護者は本人よりも低い）があります。【33ページ④】
- 小学5年生のうち、“自分のことが好きだ”に対して、「とてもそう思う」と「まあ、そう思う」を回答した割合は約7割（67.8%）です。【35ページ⑥】
- 小学5年生のうち、逆境体験に関わる項目に1個以上あてはまる割合は11.6%となっています。【36ページ⑧】

#### (5) 小学5年生の保護者調査

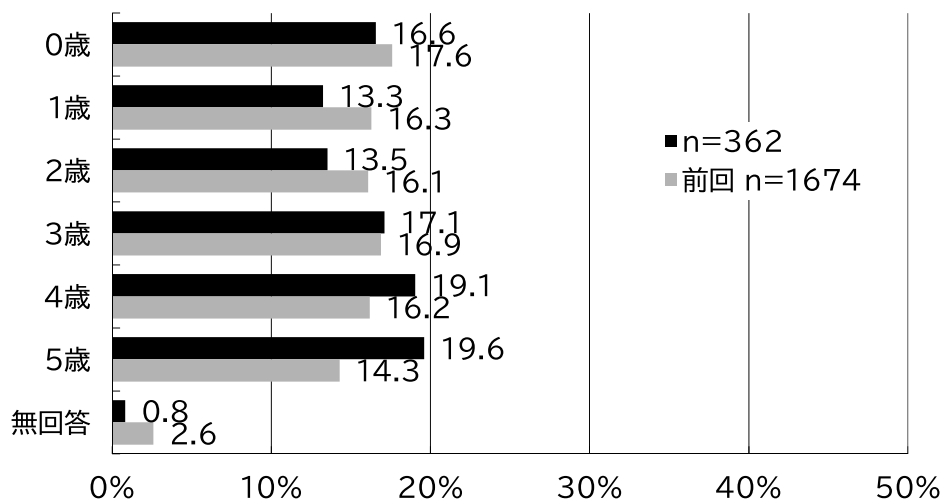
- 小学5年生の保護者のうち、“いざという時のお金の援助”について「頼れる人がいない」割合が23.7%です。【39ページ⑤】
- 小学5年生の保護者のうち、過去1年の間に経済的な理由で未払いになった者の割合は、「電気料金」が2.6%、「ガス料金」が1.8%、「水道料金」が2.9%です。【40ページ⑧】

### 3 主な設問の集計結果（速報）

#### （1）未就学児の保護者調査

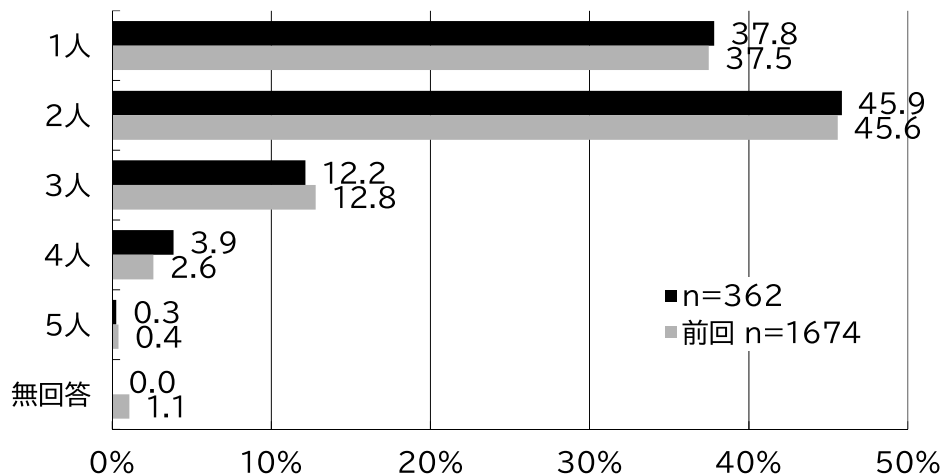
##### ①子供の年齢（学年齢）

0～2歳が43.4%、3～5歳が55.8%と、前回調査（平成30年）と比べて3～5歳の割合が上昇しています。（参考：令和6年4月1日現在の住民基本台帳人口の構成比 0～2歳 47.3%、3～5歳 52.7%）



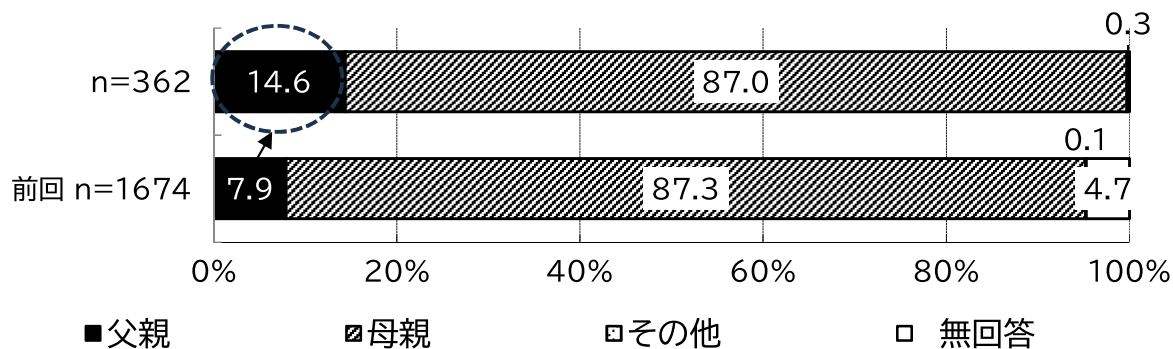
##### ②子供の人数

「2人」が45.9%と半数近くで、次いで「1人」が37.8%と続いています。



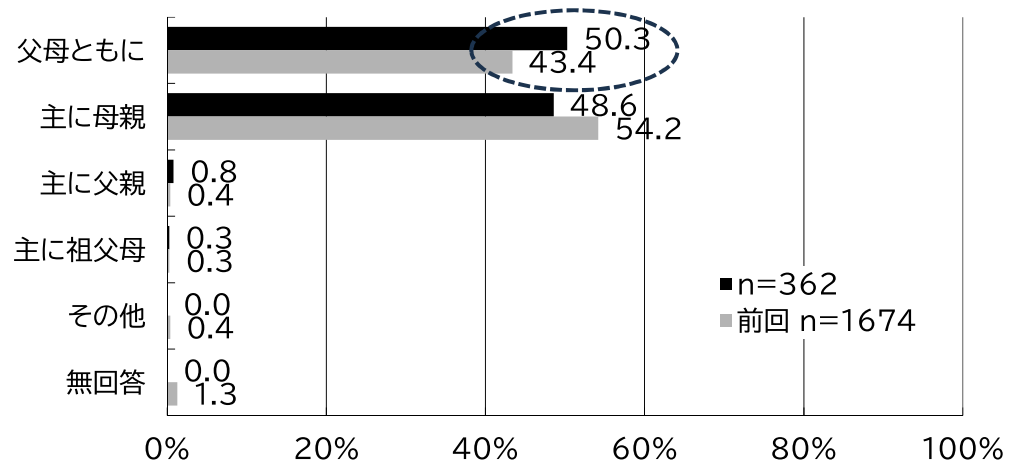
##### ③回答者

「母親」が87.0%、「父親」が14.6%となっており、前回調査と比べて「父親」が上昇しています。



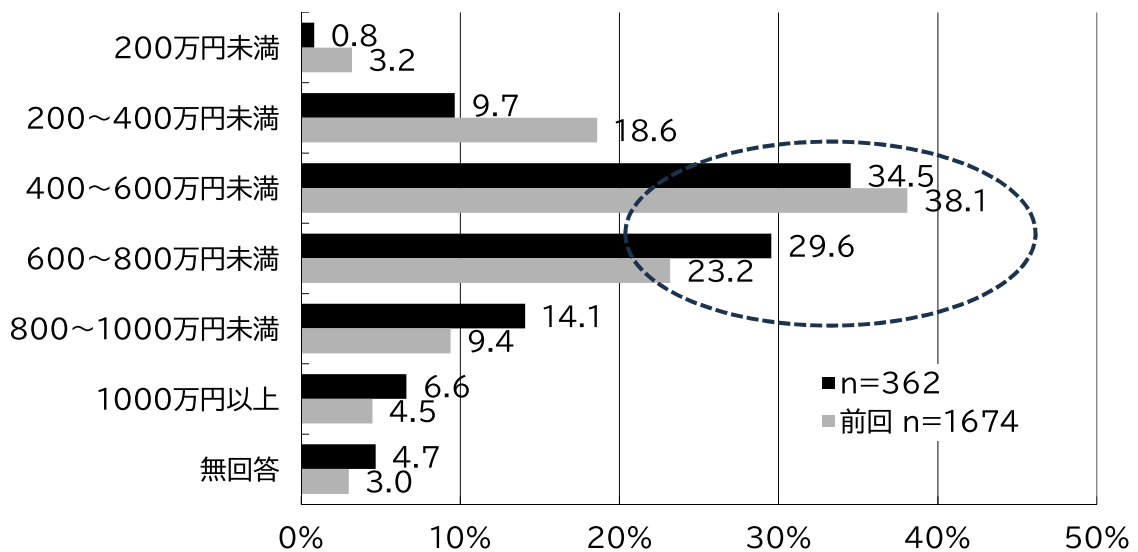
#### ④主に子育てを行っている人

前回調査と比べて「父母ともに」の割合が上昇しており、子育てにおける男女共同参画が進行しています。



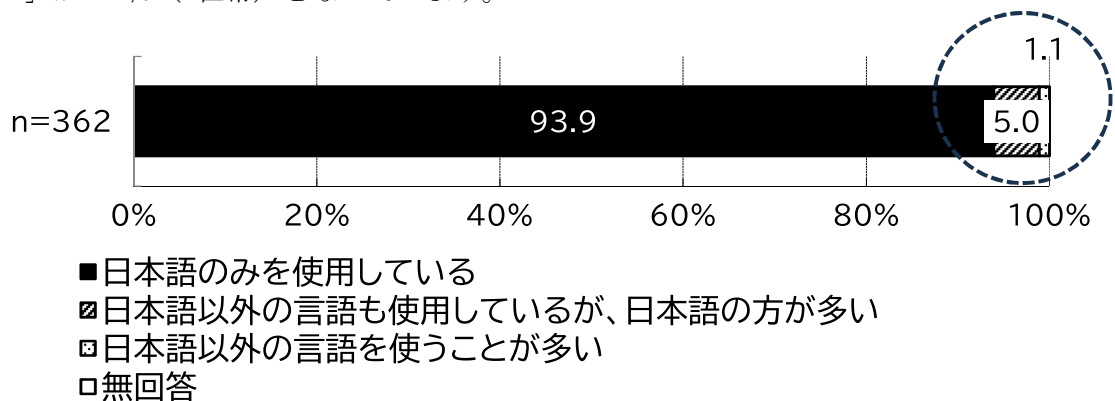
#### ⑤世帯の収入

「400～600万円未満」が34.5%、「600～800万円未満」が29.6%と、これら世帯収入が6割以上(64.1%)を占めています。前回調査と比べて400万円未満の割合が低下し、600万円以上が上昇しています。



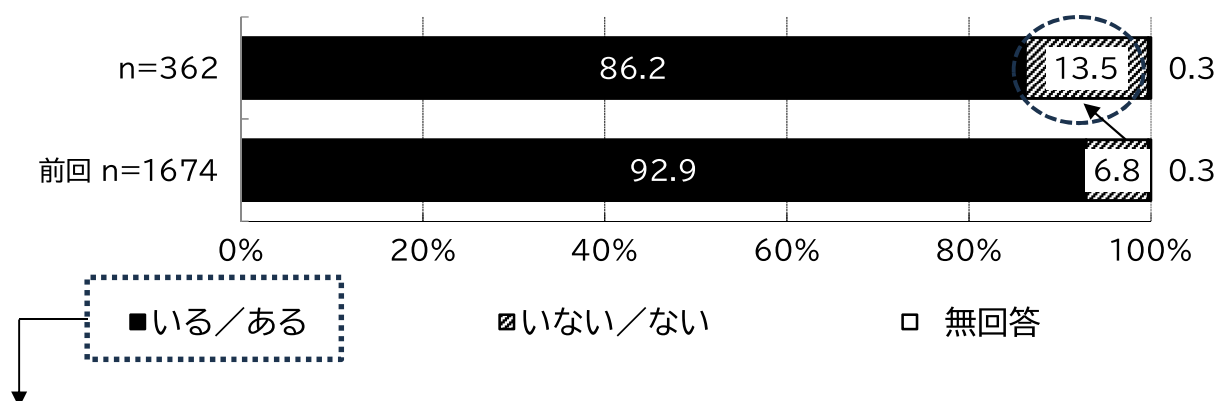
#### ⑥家庭での使用言語

「日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多い」が5.0% (18世帯)、「日本語以外の言語を使うことが多い」が1.1% (4世帯) となっています。



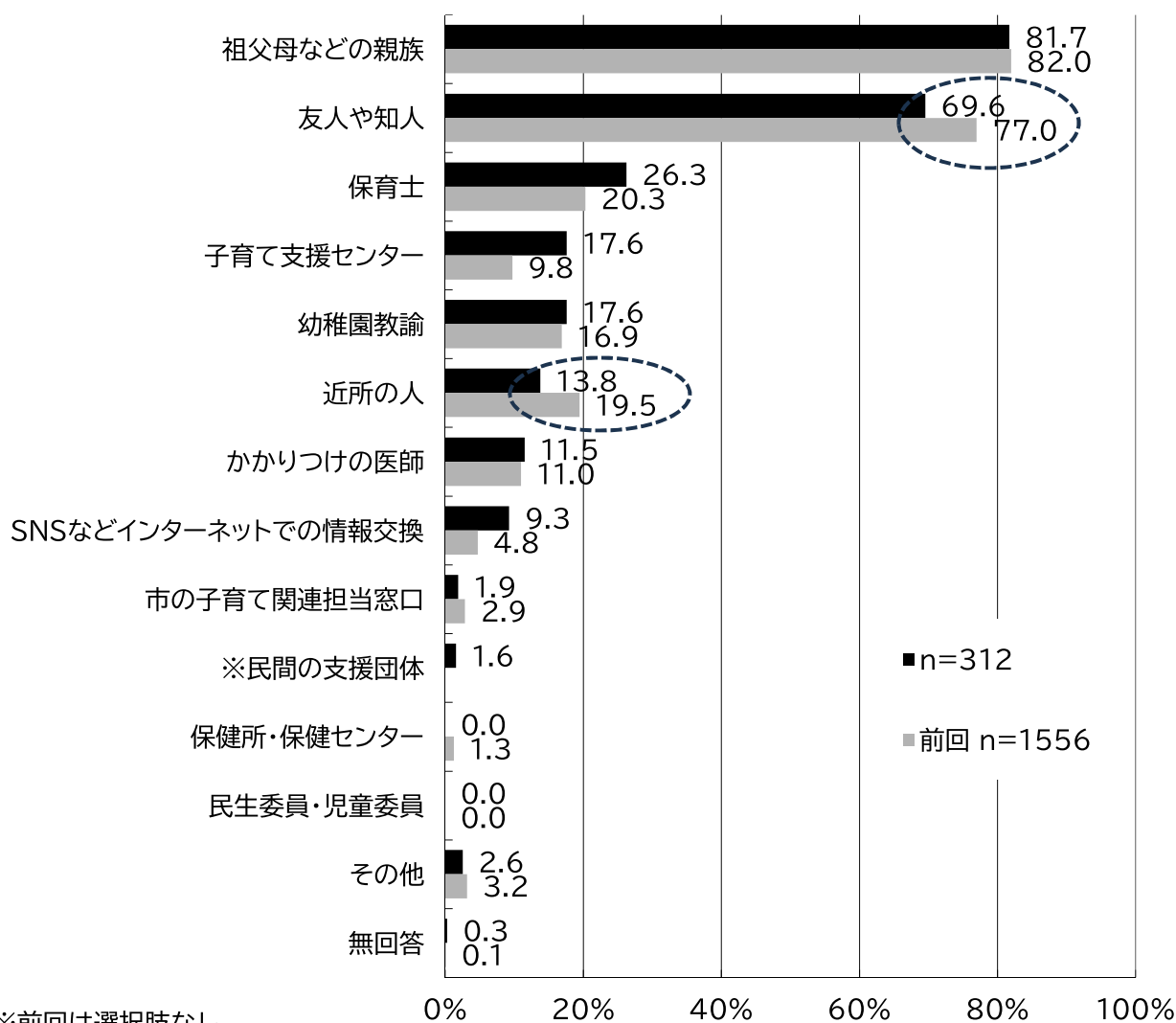
## ⑦子育てに関して、気軽に相談できる人・場所の有無

「いる／ある」が9割近く（86.2%）を占めているものの、「いない／ない」が13.5%と前回調査と比べて上昇しています。



### 〈相談できる先〉（複数回答可）

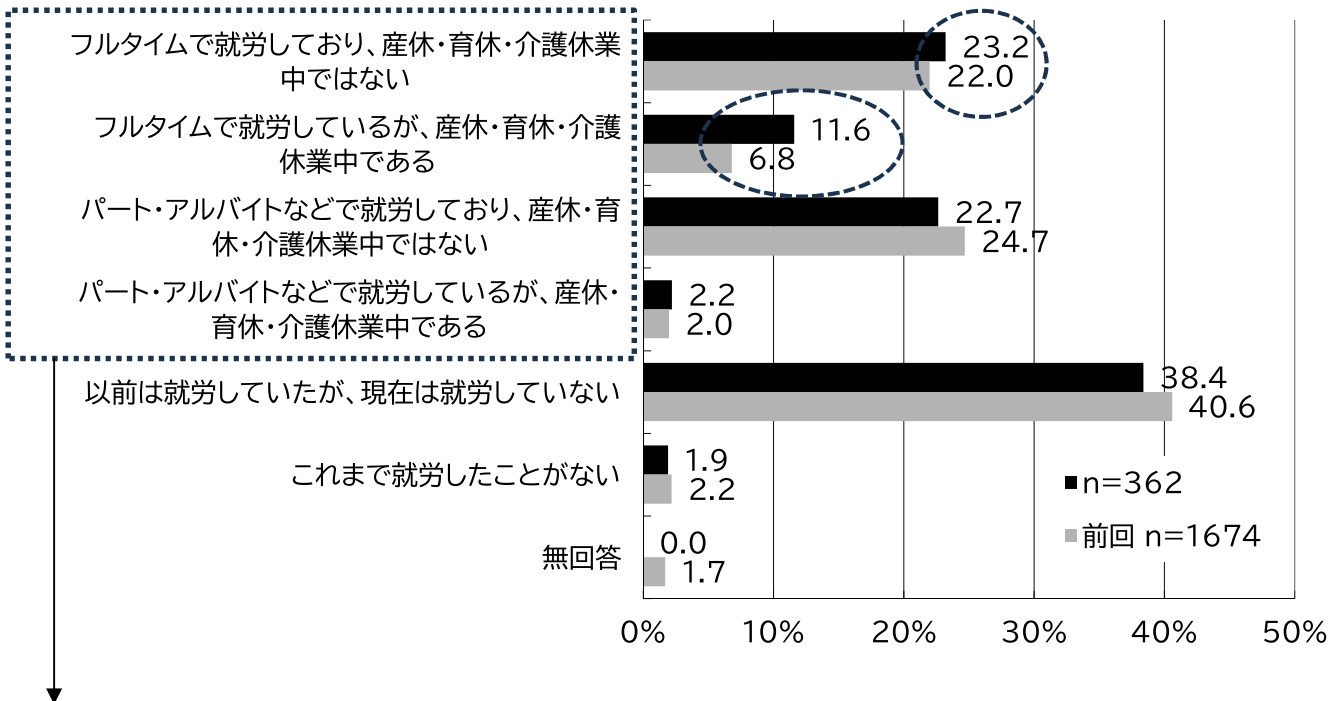
「祖父母などの親族」、「友人や知人」が上位2つで、前回調査と比べて「友人や知人」や「近所の人」の割合が低下しており、「保育士」や「子育て支援センター」が上昇しています。



※前回は選択肢なし

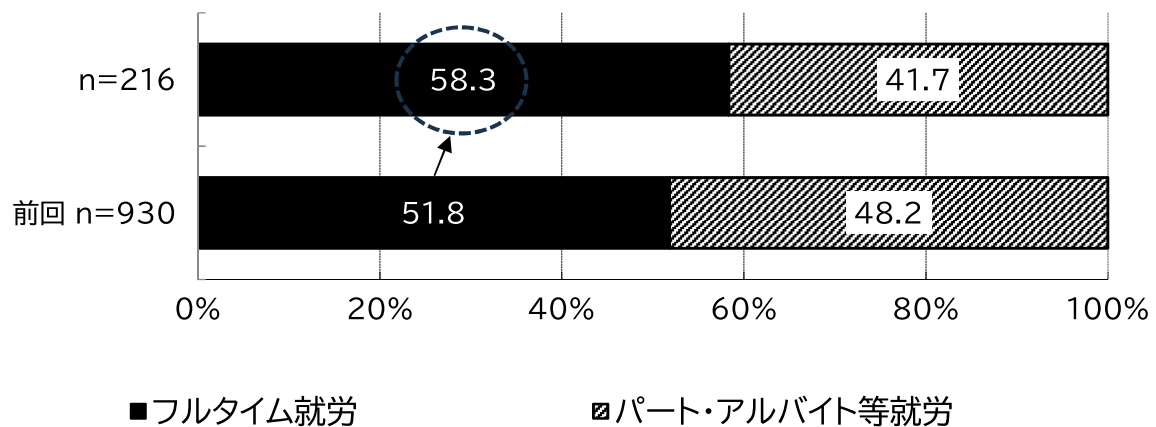
## ⑧母親の就労状況

母親のフルタイム就労の割合は34.8%となっており、前回調査（28.8%）からの上昇が見られます。  
 なお、現在就労している母親に限定すると、フルタイム就労が58.3%、パート・アルバイト等就労が41.7%という状況です。



### 〈現在就労している母親の就労形態〉

「フルタイム就労」の割合が58.3%となっており、前回調査（51.8%）からの上昇が見られます。



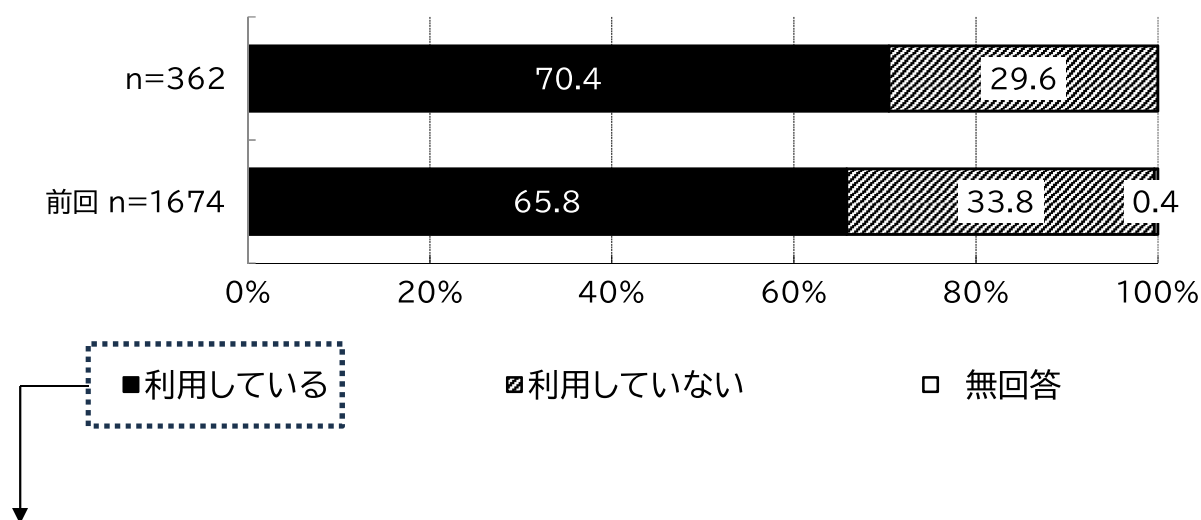
### 〈参考〉

国の公表資料※による有配偶女性のフルタイム就労の割合は、20代66.5%、30代49.3%、40代36.4%となっています。

※男女共同参画白書 令和5年版（「令和4年度 新しいライフスタイル、新しい働き方を踏まえた男女共同参画推進に関する調査」（令和4年度内閣府委託調査）より作成）

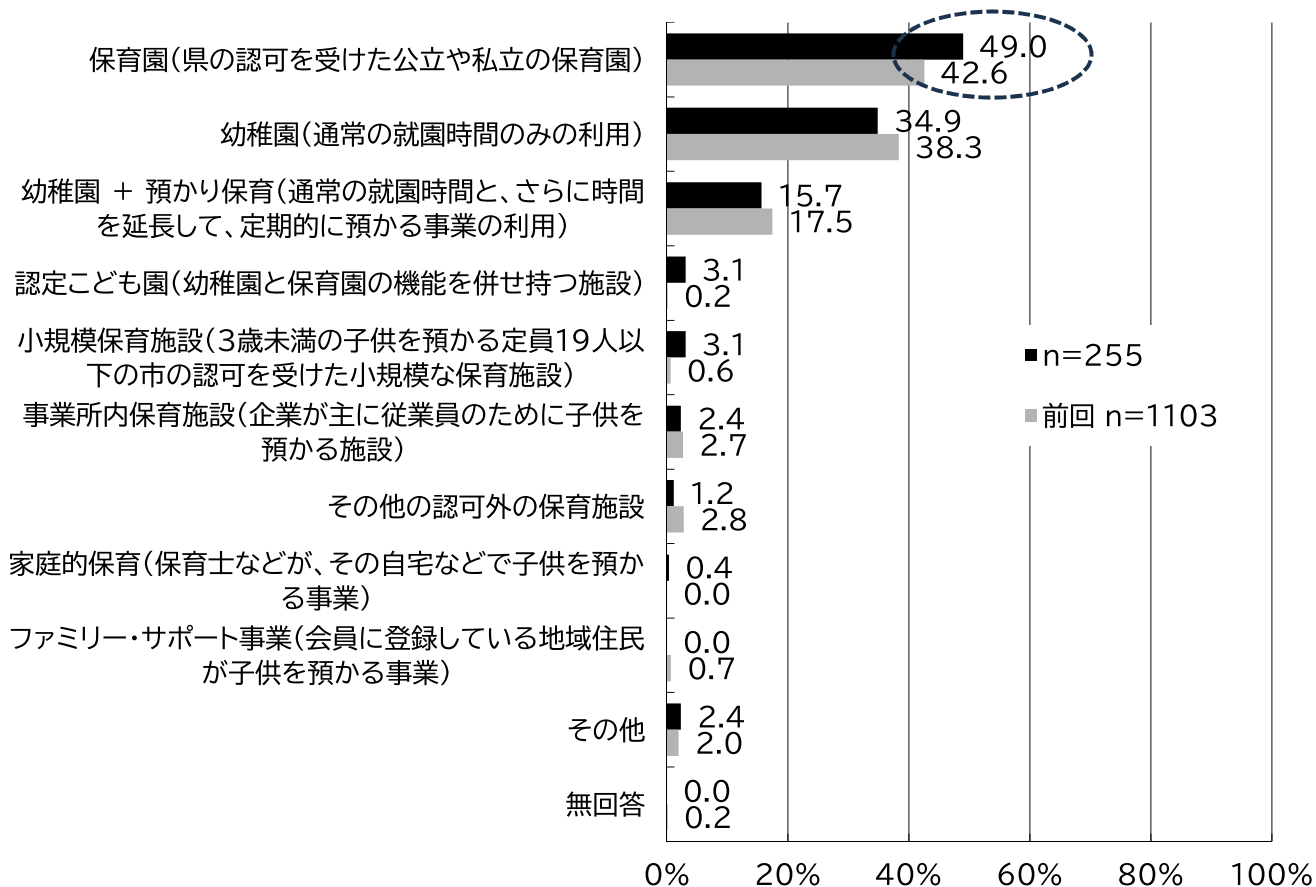
## ⑨幼稚園や保育所などの「定期的な教育・保育事業」の利用状況

「利用している」の割合が上昇しており、これは前回調査と比べて回答者における3～5歳の割合が上昇していることと、3歳未満児の利用率の上昇によるものと考えられます。



### 〈利用している施設・事業〉（複数回答可）

現在利用している事業は、「保育園」が49.0%と最も高く、母親のフルタイム就労の増加を背景に、同回答の割合が上昇している一方、「幼稚園」は34.9%と前回調査と比べて割合が低下しています。



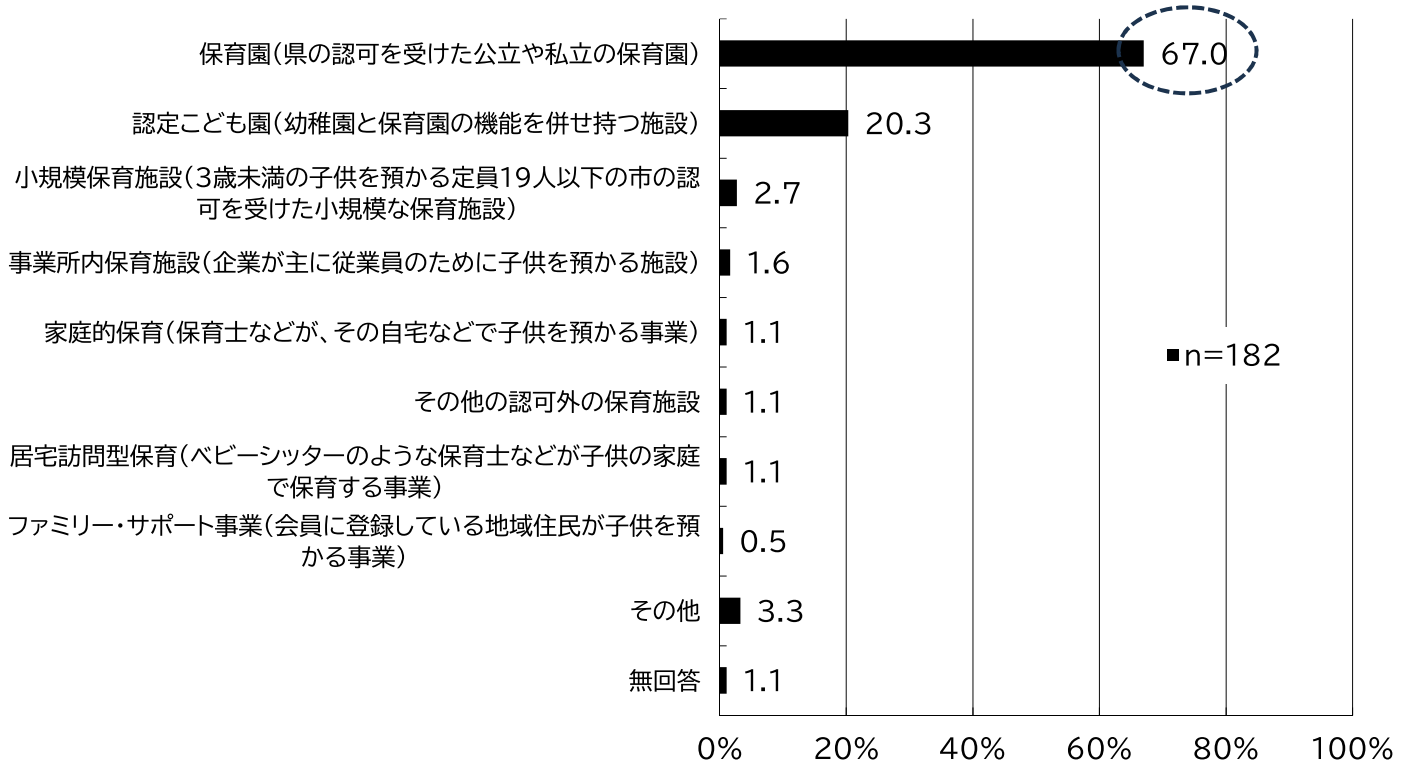


## ⑩幼稚園や保育所などの「定期的な教育・保育事業」の今後の利用意向

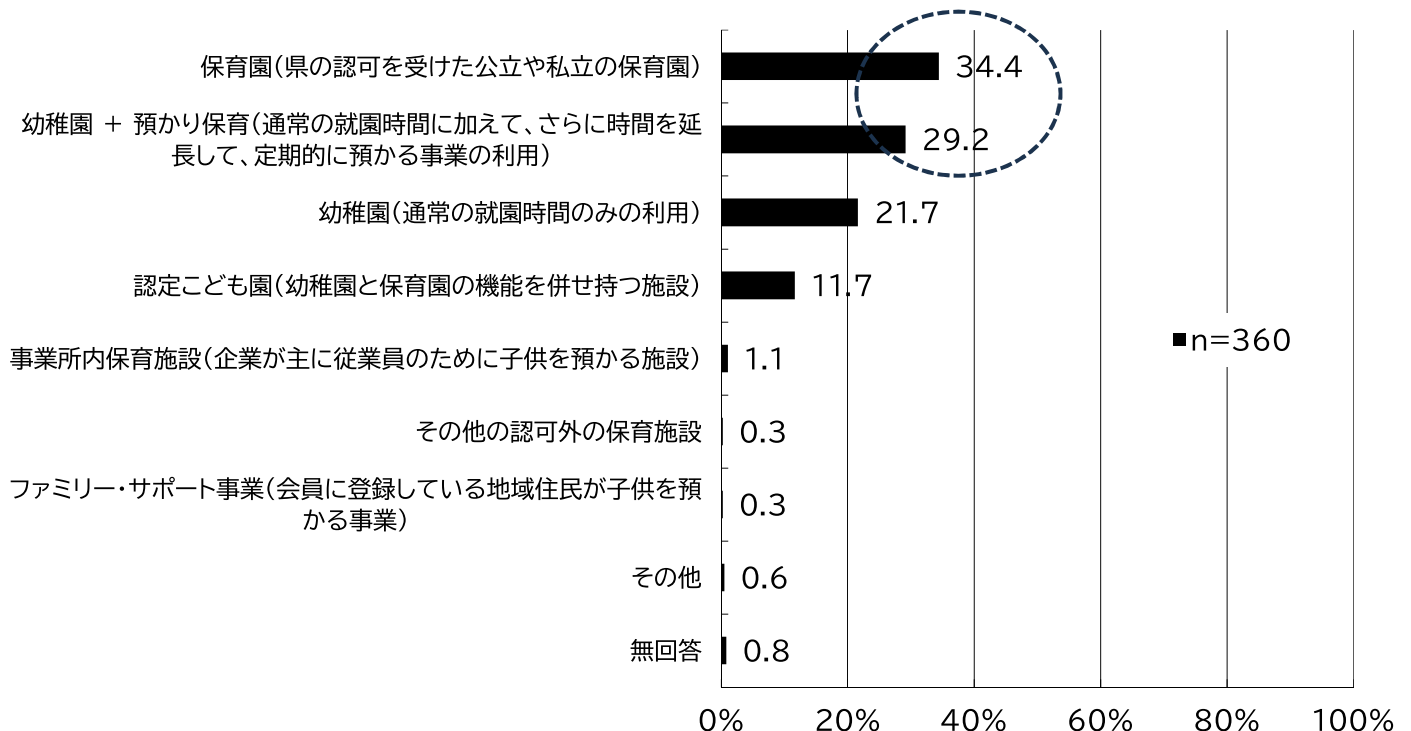
今後最も利用したい事業は、2歳以下では「保育園」が67.0%と最も高く、次いで「認定こども園」が20.3%と続いています。

3歳以上では、「保育園」が34.4%、「幼稚園 + 預かり保育」が29.2%と、これらが上位2つで、次いで「幼稚園」が21.7%と続いています。

### 〈2歳以下のとき最も利用したい施設・事業〉※2歳以下の子供の保護者のみ回答



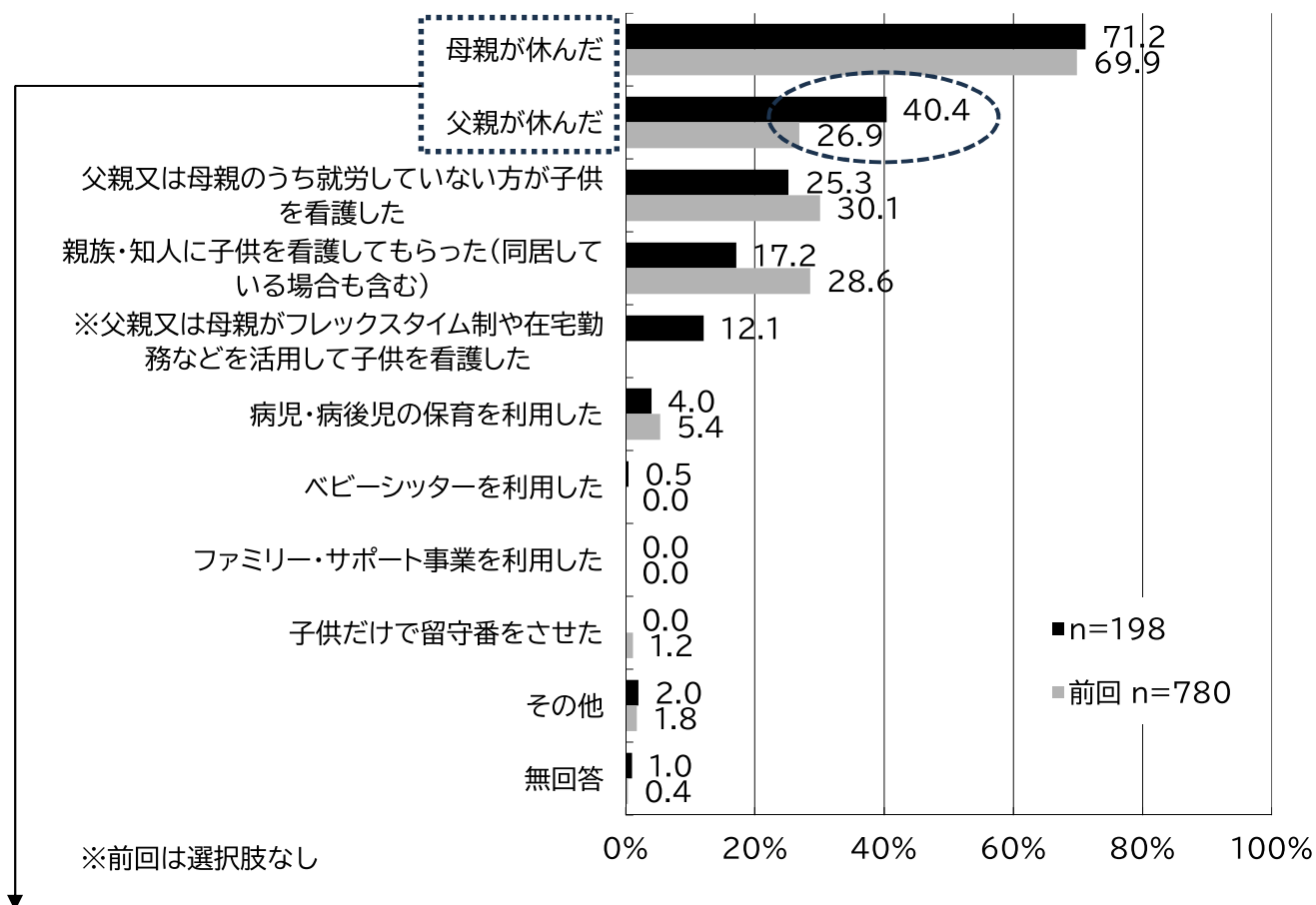
### 〈3歳以上のとき最も利用したい施設・事業〉



## ⑪病児・病後児保育の利用意向

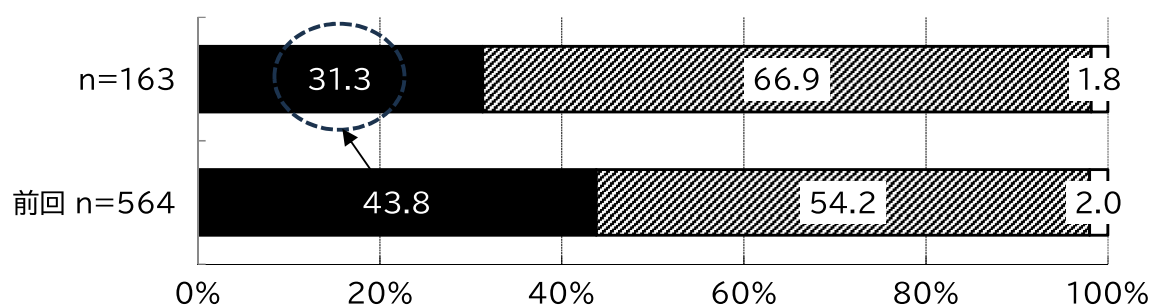
病気やケガで幼稚園、保育園、認定こども園などが利用できなかったときの対処方法は、「母親が休んだ」が71.2%と最も高くなっています。前回調査と比べて「父親が休んだ」が上昇している一方、「親族・知人に子供を看護してもらった（同居している場合も含む）」などが低下しています。

〈過去1年で、病気やケガで幼稚園、保育園、認定こども園などが利用できなかったときの対処方法〉  
(複数回答可)



### 〈病児・病後児保育の利用意向〉

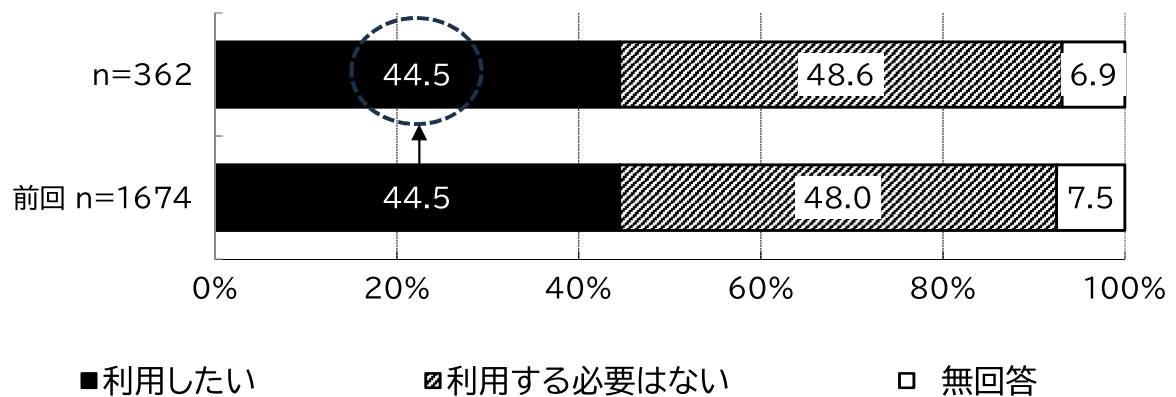
「母親が休んだ」、「父親が休んだ」という人に病児・病後児保育について聞いたところ、「できれば病児・病後児保育施設などを利用したい」が31.3%と、前回調査と比べて利用希望率が低下しており、企業における両立支援制度の充実のほか、コロナ禍を経た働き方の変化などが影響している可能性があります。



■ できれば病児・病後児保育施設などを利用したい   ■ 利用したいとは思わない   □ 無回答

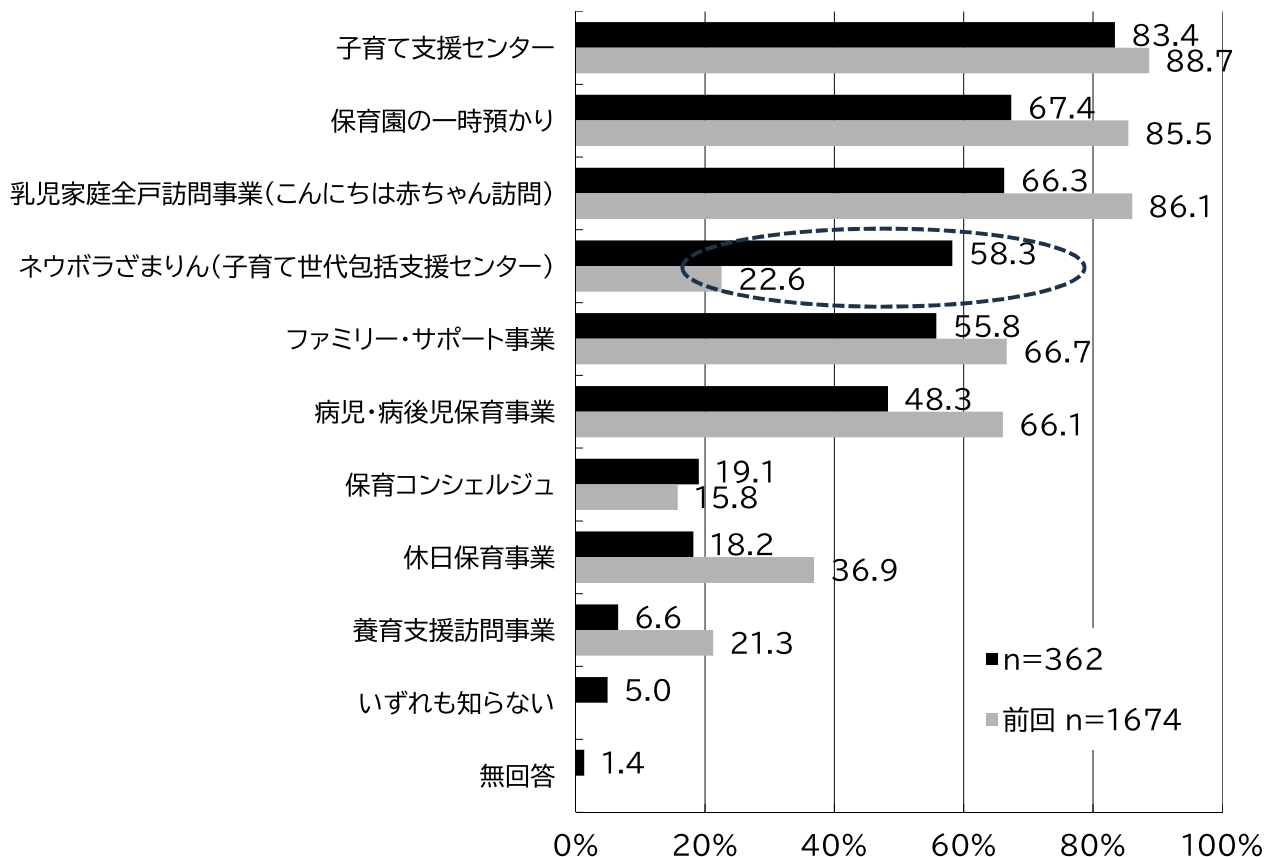
## ⑫一時保育の利用意向

私用、親の通院、不定期の就労などの目的による一時保育の利用について、「利用したい」が44.5%と、前回調査からのニーズの変化は見られません。



## ⑬市の子育て支援事業の認知度（複数回答可）

前回調査と設問形式が異なるため、参考比較となりますが、多くの事業の認知度が低下している一方、「ネウボラざまりん（子育て世代包括支援センター）」が前回22.6%から今回58.3%と、認知度の向上が顕著です。



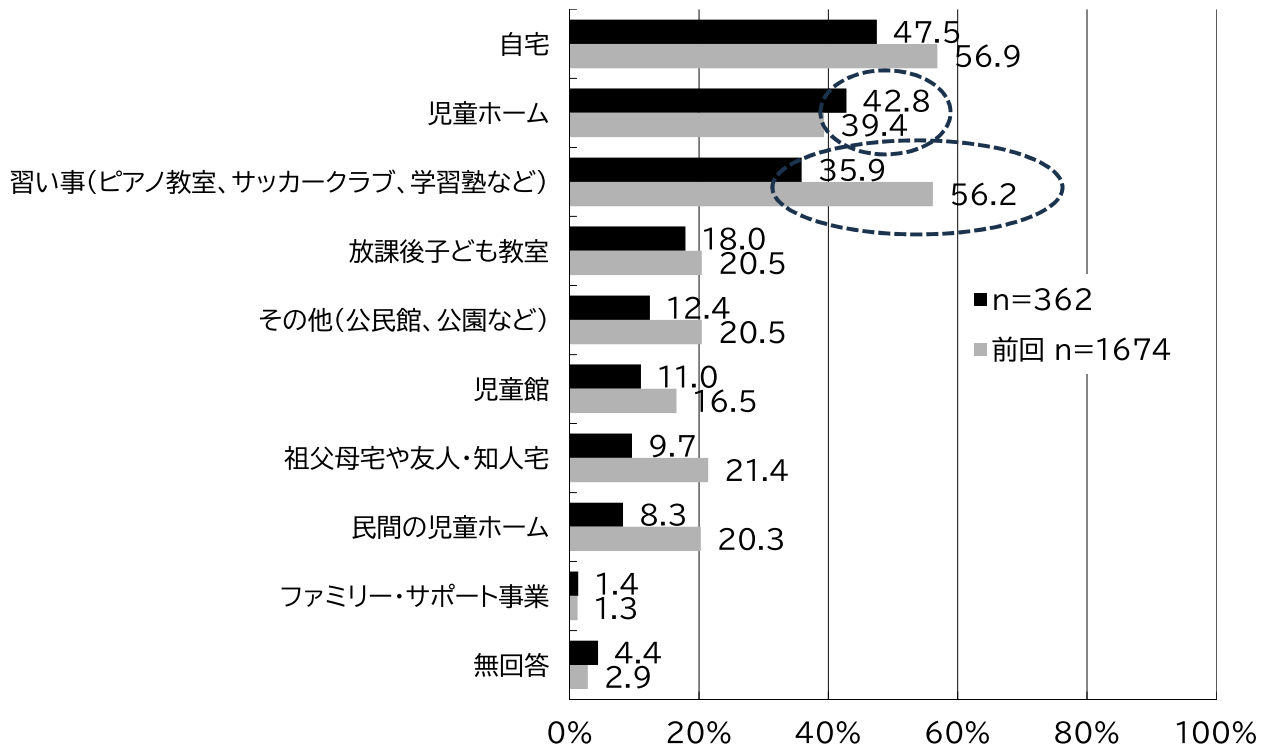
※今回は、知っているものに○を付ける形式の設問であり、前回は各事業について「はい（知っている）」「いいえ（知らない）」で回答する形式

#### ⑭小学校就学後における放課後の過ごし方の意向

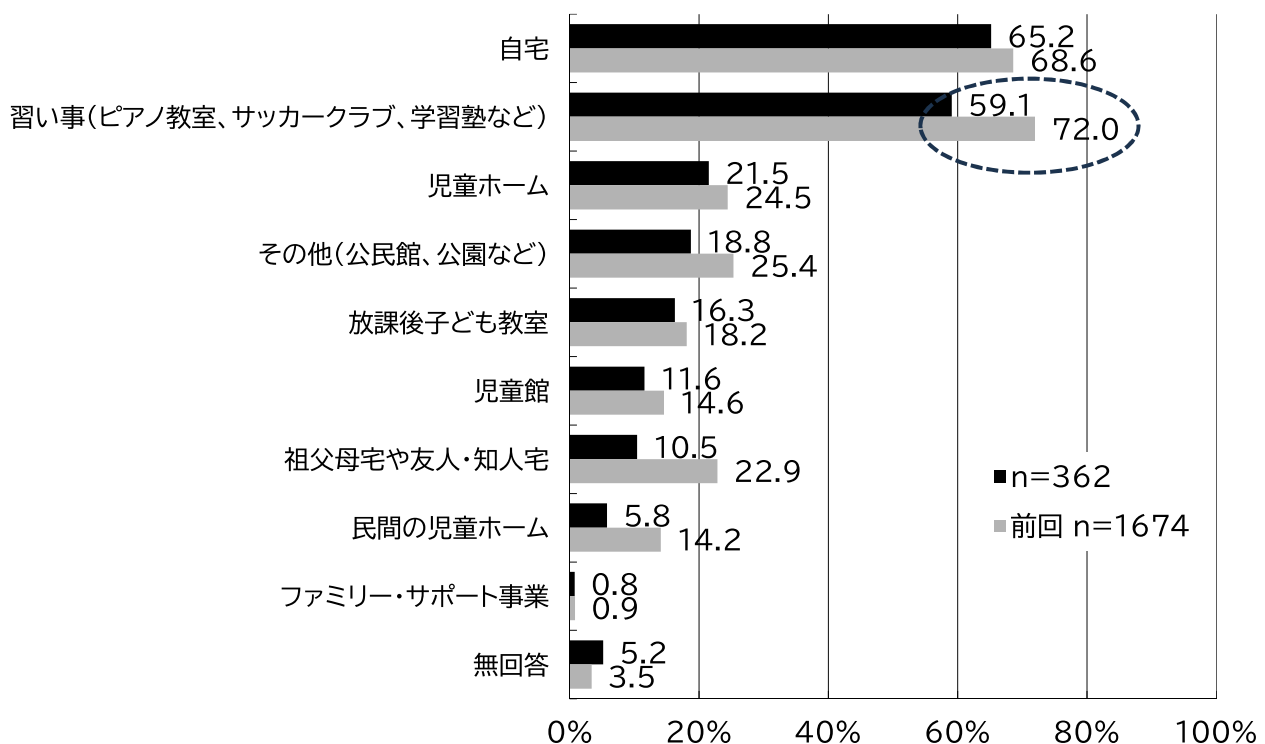
小学校就学後の低学年（１～３年生）時における放課後の過ごし方は、「自宅」や「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」の希望率が低下している一方、「児童ホーム」は上昇しています。

小学校就学後の高学年（４～６年生）時における放課後の過ごし方は、「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」の希望率が低下しています。

##### 〈低学年（１～３年生）のときに放課後を過ごさせたい場所〉（複数回答可）

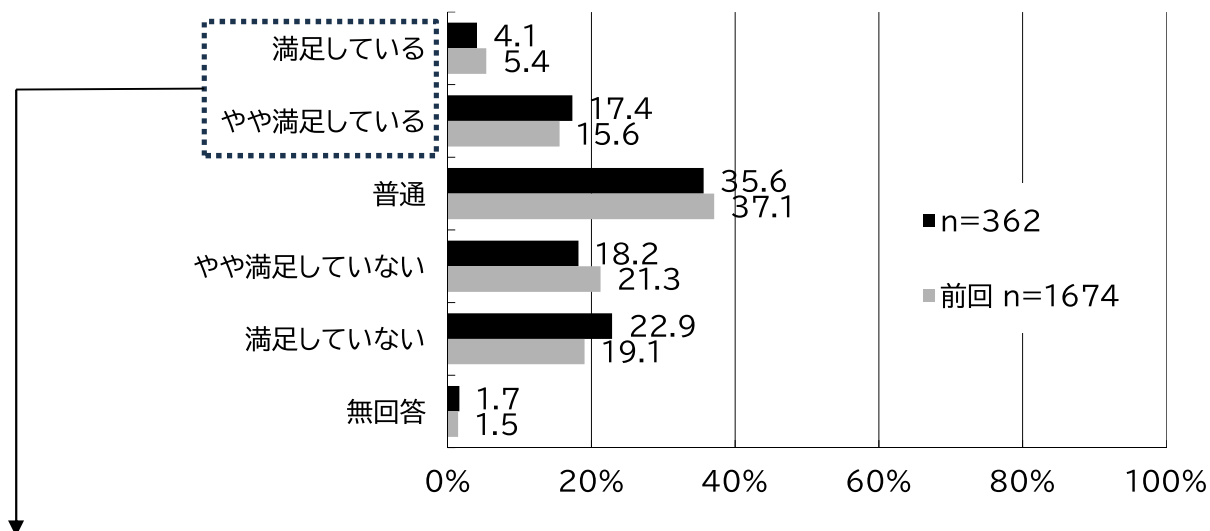


##### 〈高学年（４～６年生）のときに放課後を過ごさせたい場所〉（複数回答可）



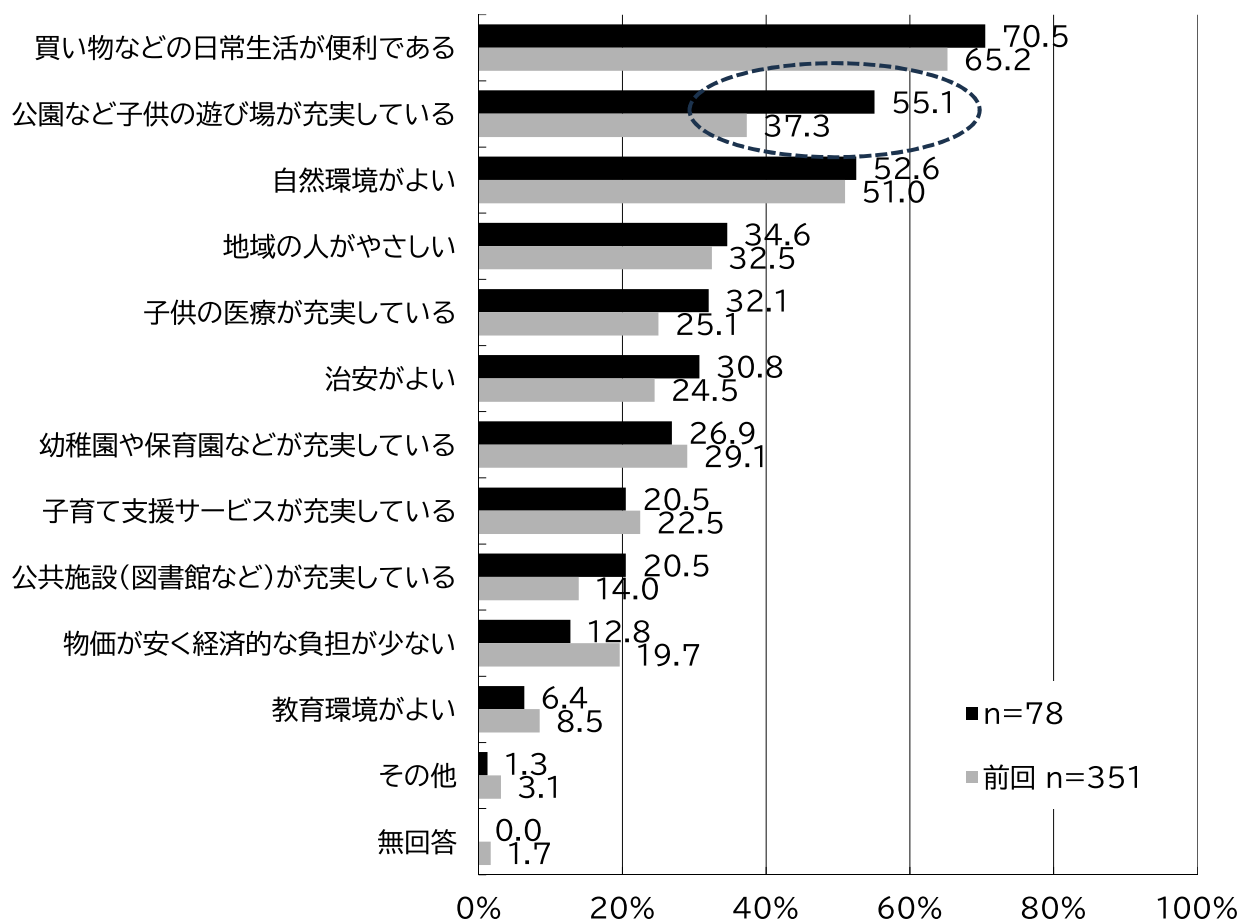
## ⑮座間市の子育ての環境や支援への満足度

「満足している」と「やや満足している」を合わせた肯定的な評価が21.5%と、前回調査（21.0%）と概ね同水準であり、肯定的な評価が「やや満足していない」、「満足していない」という否定的な評価（41.2%）を下回っています。



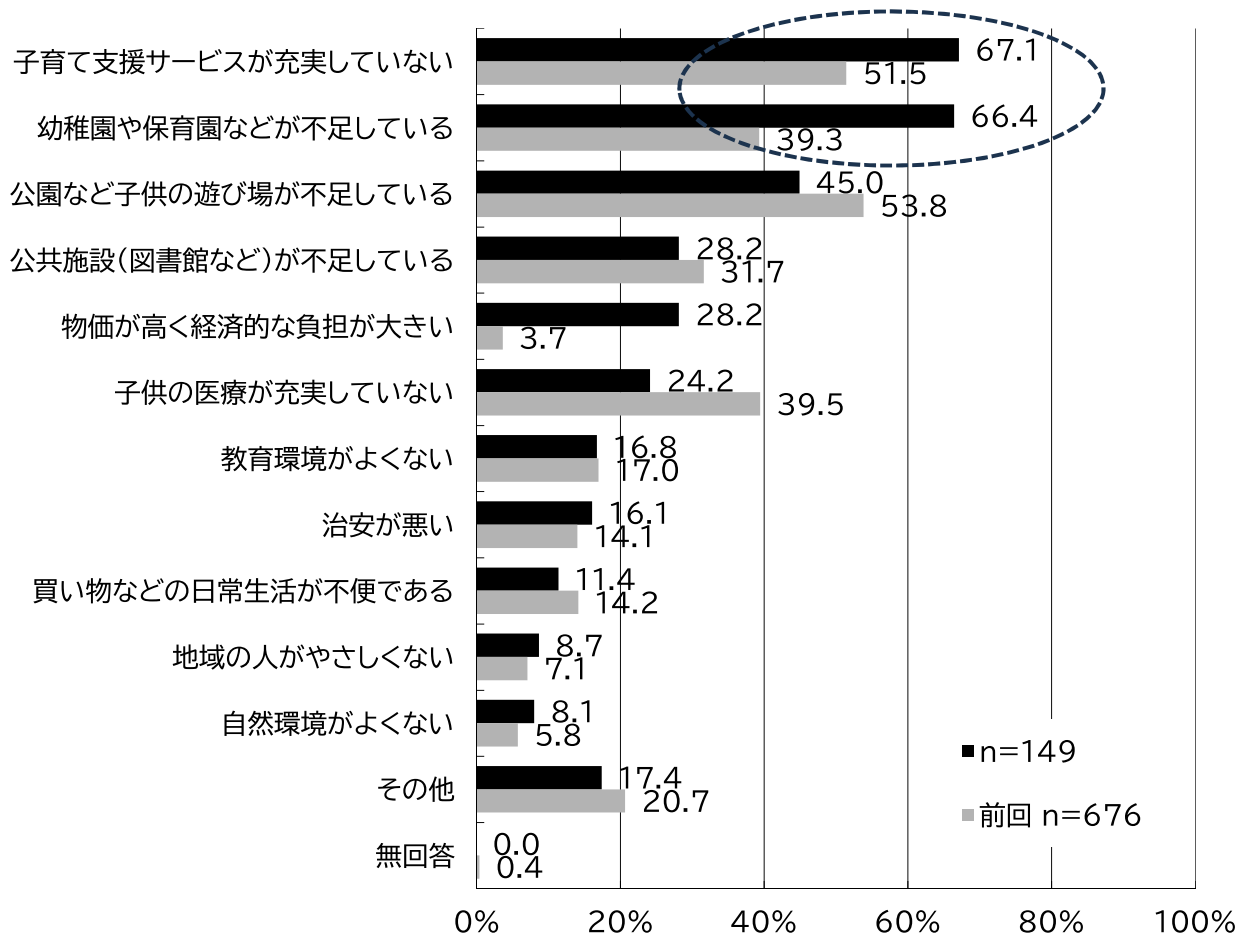
### 〈満足している理由〉（複数回答可）

肯定的な評価の理由は「買い物などの日常生活が便利である」、「公園など子供の遊び場が充実している」、「自然環境がよい」が上位3つで、「公園など子供の遊び場が充実している」との回答率が前回37.3%から今回55.1%に上昇しています。



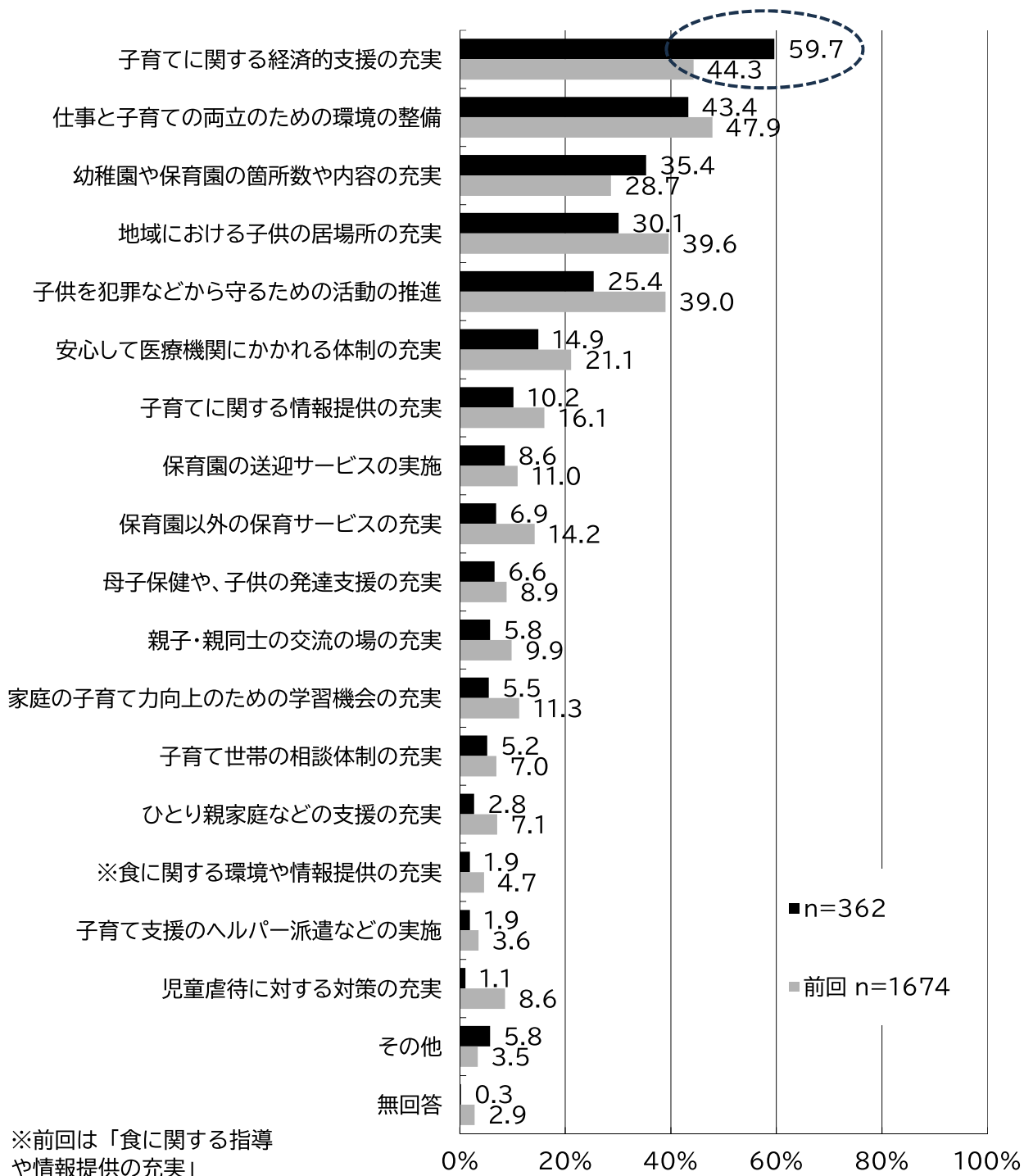
〈満足していない理由〉（複数回答可）

否定的な評価の理由は「子育て支援サービスが充実していない」、「幼稚園や保育園などが不足している」、「公園など子供の遊び場が不足している」が上位3つで、「子育て支援サービスが充実していない」と「幼稚園や保育園などが不足している」、「物価が高く経済的な負担が大きい」の回答率が上昇している一方、「公園など子供の遊び場が不足している」は低下しており、「子供の医療が充実していない」との回答も低下しています。



# ⑩市の子ども・子育て支援策として、今後力を入れていくべきこと（複数回答可）

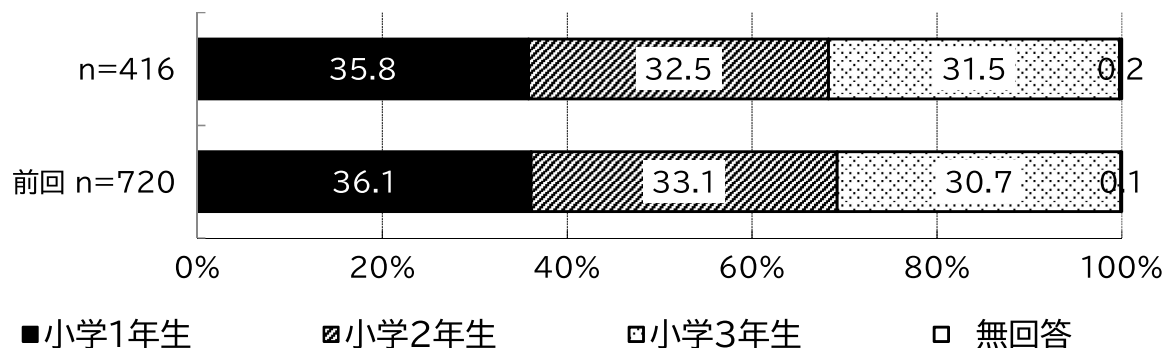
「子育てに関する経済的支援の充実」が59.7%と最も高く、同回答は前回調査と比べて上昇しています。次いで、「仕事と子育ての両立のための環境の整備」、「幼稚園や保育園の箇所数や内容の充実」、「地域における子供の居場所の充実」と続いています。



## (2) 就学児(小学校1～3年生)の保護者及び本人調査

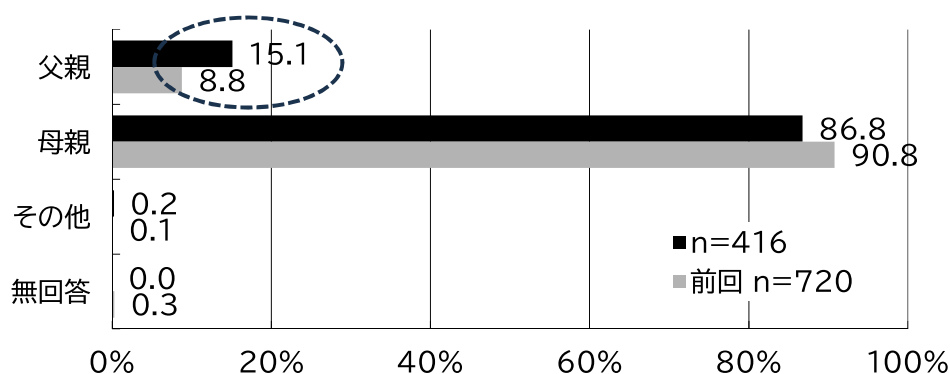
### ①学年

1年生が35.8%、2年生が32.5%、3年生が31.5%と、前回調査と概ね同様の構成となっています。



### ②回答者 (複数回答可)

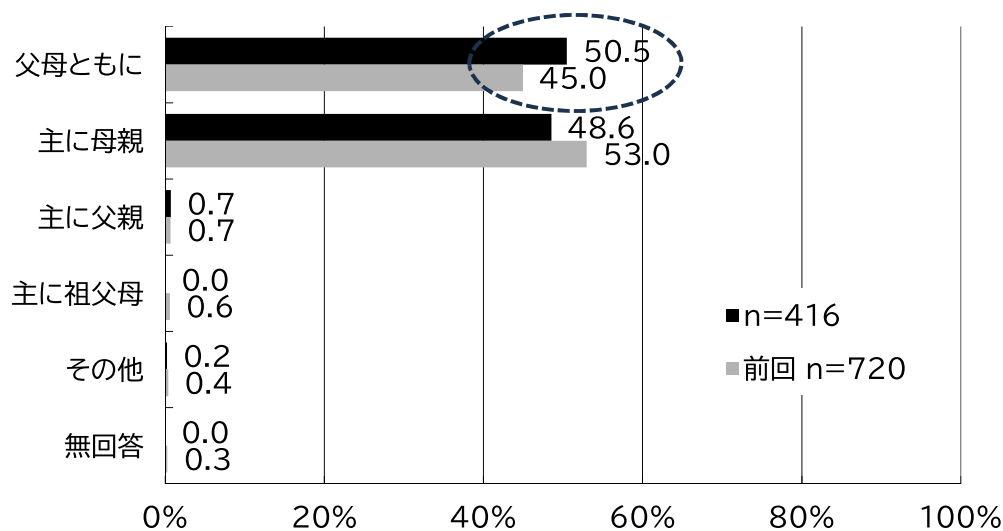
「母親」が86.8%、「父親」が15.1%と、前回調査と比べて「父親」が上昇しており、未就学児の保護者調査と同様の傾向となっています。



※前回は単数回答

### ③主に子育てを行っている人

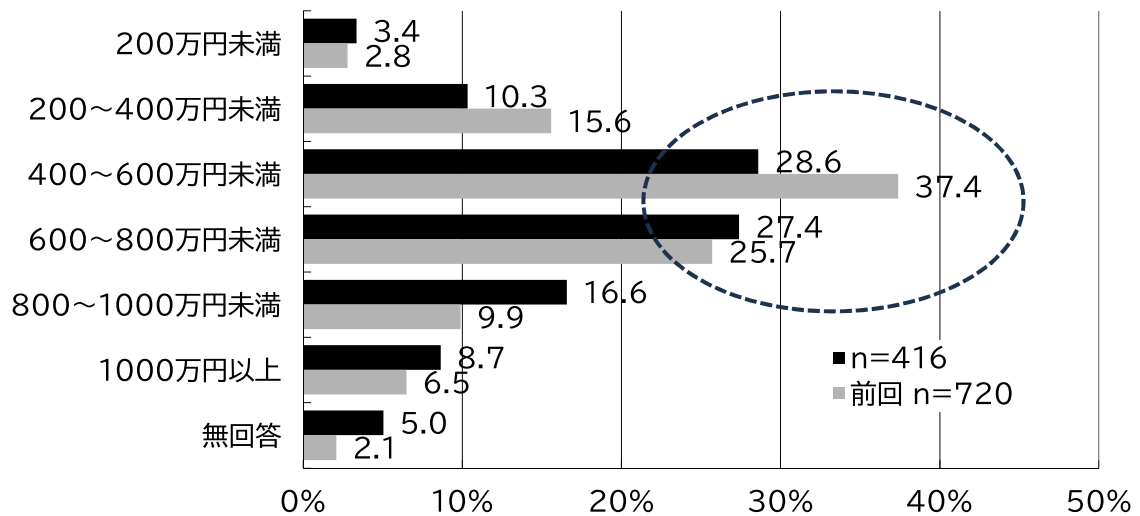
前回調査と比べて「父母ともに」の割合が上昇しており、未就学児の保護者調査と同様の傾向となっています。





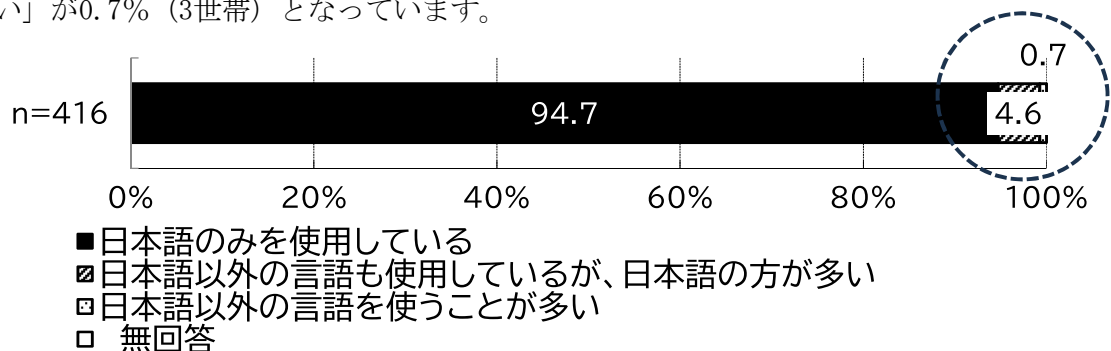
#### ④世帯の収入

「400～600万円未満」が28.6%、「600～800万円未満」が27.4%と、これら世帯収入が半数以上(56.0%)を占めています。前回調査と比べて600万円未満の割合が低下し、600万円以上が上昇しています。



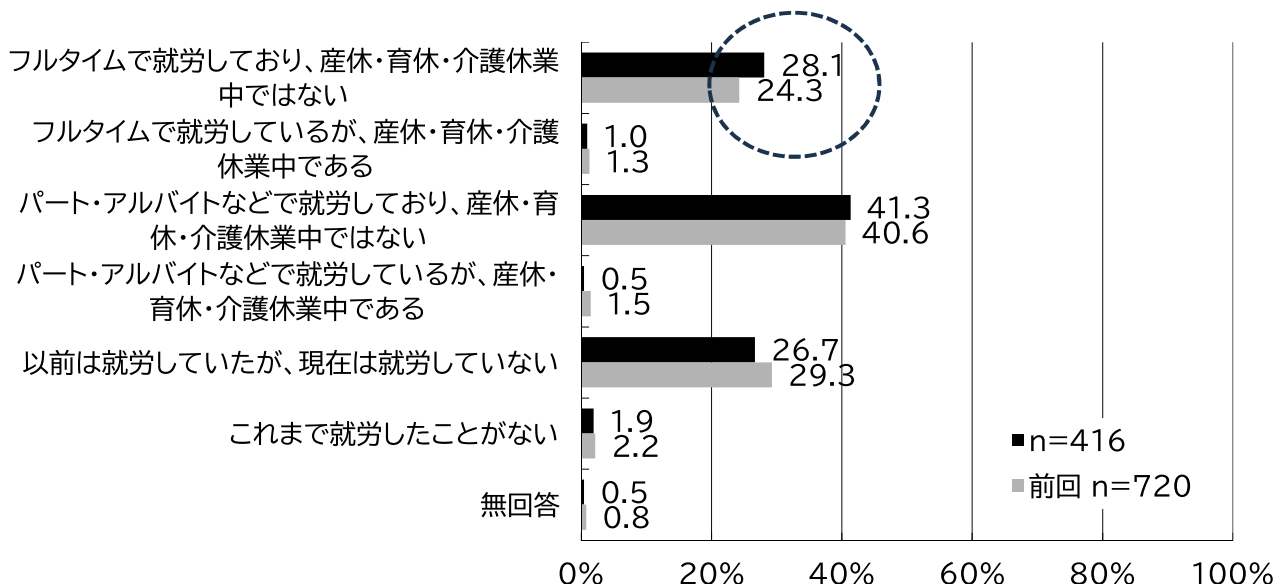
#### ⑤家庭での使用言語

「日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多い」が4.6% (19世帯)、「日本語以外の言語を使うことが多い」が0.7% (3世帯)となっています。



#### ⑥母親の就労状況

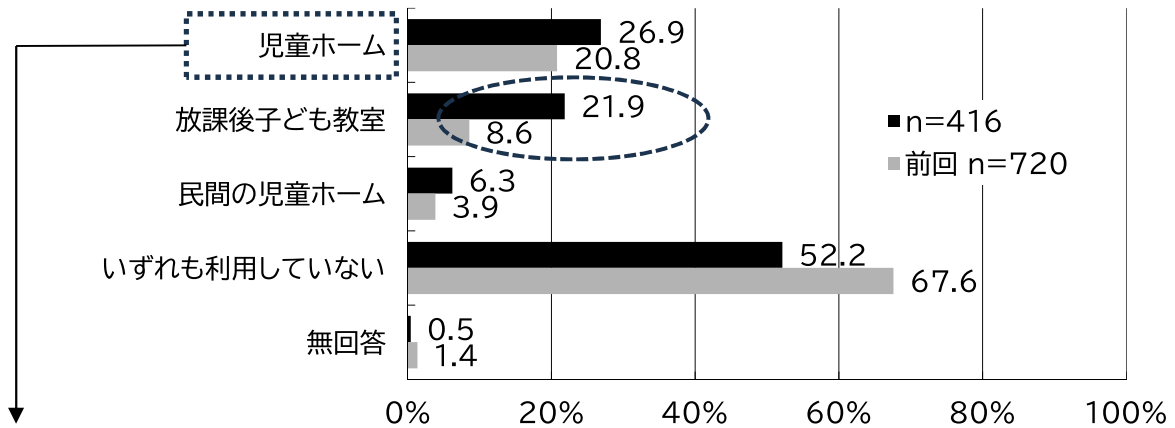
母親のフルタイム就労の割合は29.1%と、前回調査 (25.6%) からの上昇が見られます。



## ⑦放課後事業の利用状況と利用意向

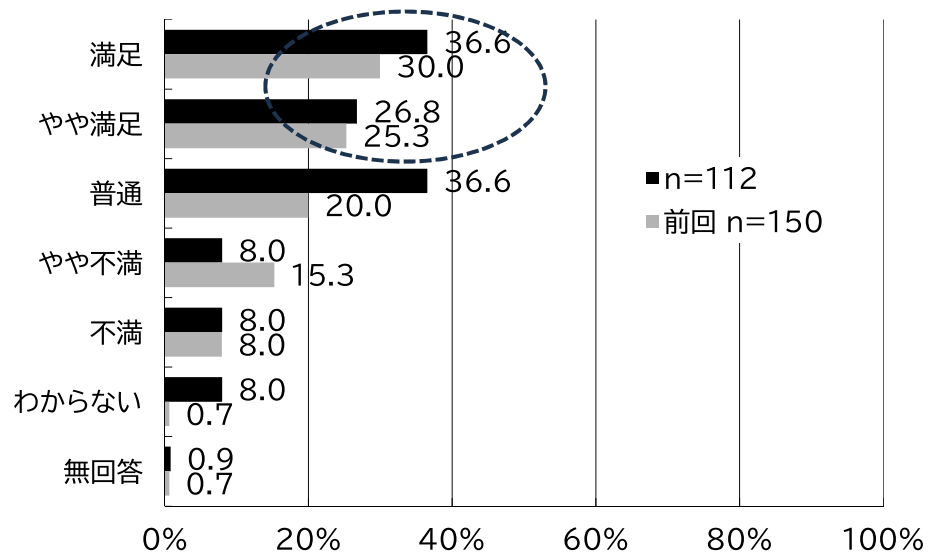
利用している放課後事業は、「児童ホーム」が26.9%、「放課後子ども教室」が21.9%、「民間の児童ホーム」が6.3%となっています。前回調査と比べて「児童ホーム」、「放課後子ども教室」がともに上昇しており、特に「放課後子ども教室」は前回の倍以上の利用率となっています。

### 〈利用している放課後事業〉（複数回答可）



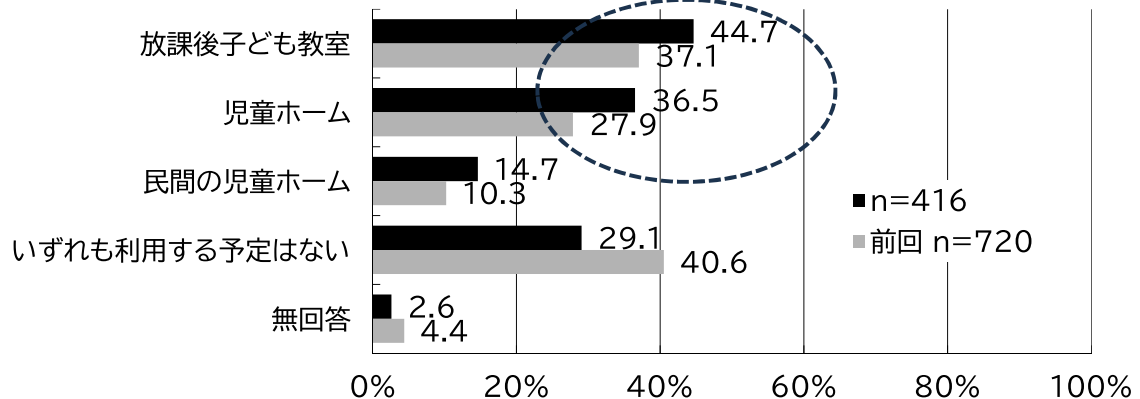
### 〈児童ホームの満足度〉

「満足」と「やや満足」を合わせた割合が63.4%と、前回調査（55.3%）から上昇しています。



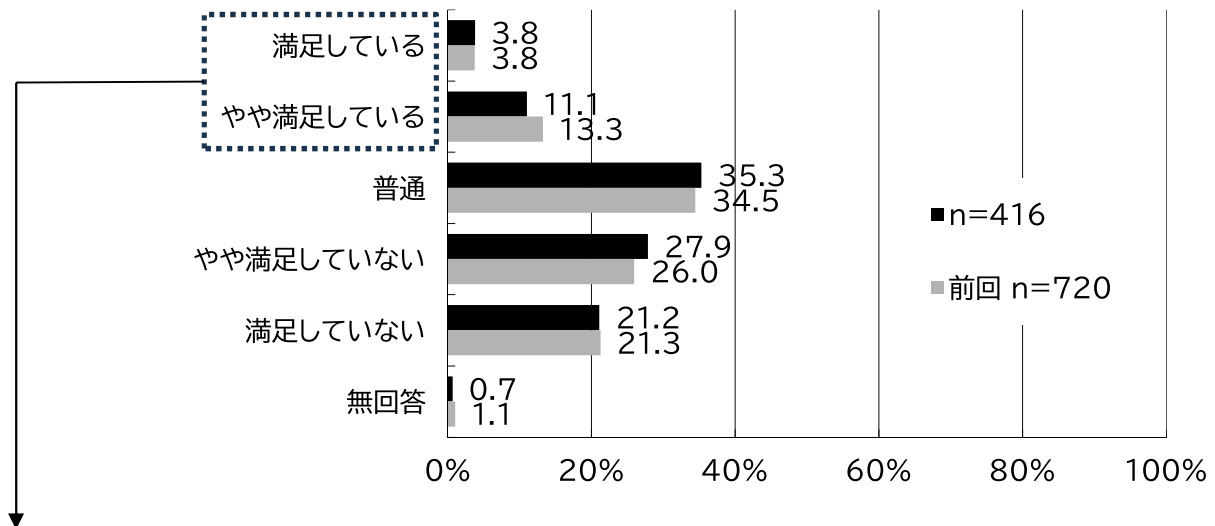
### 〈今後利用したい放課後事業〉（複数回答可）

「放課後子ども教室」が44.7%と最も高く、いずれの事業も利用希望率が上昇しています。



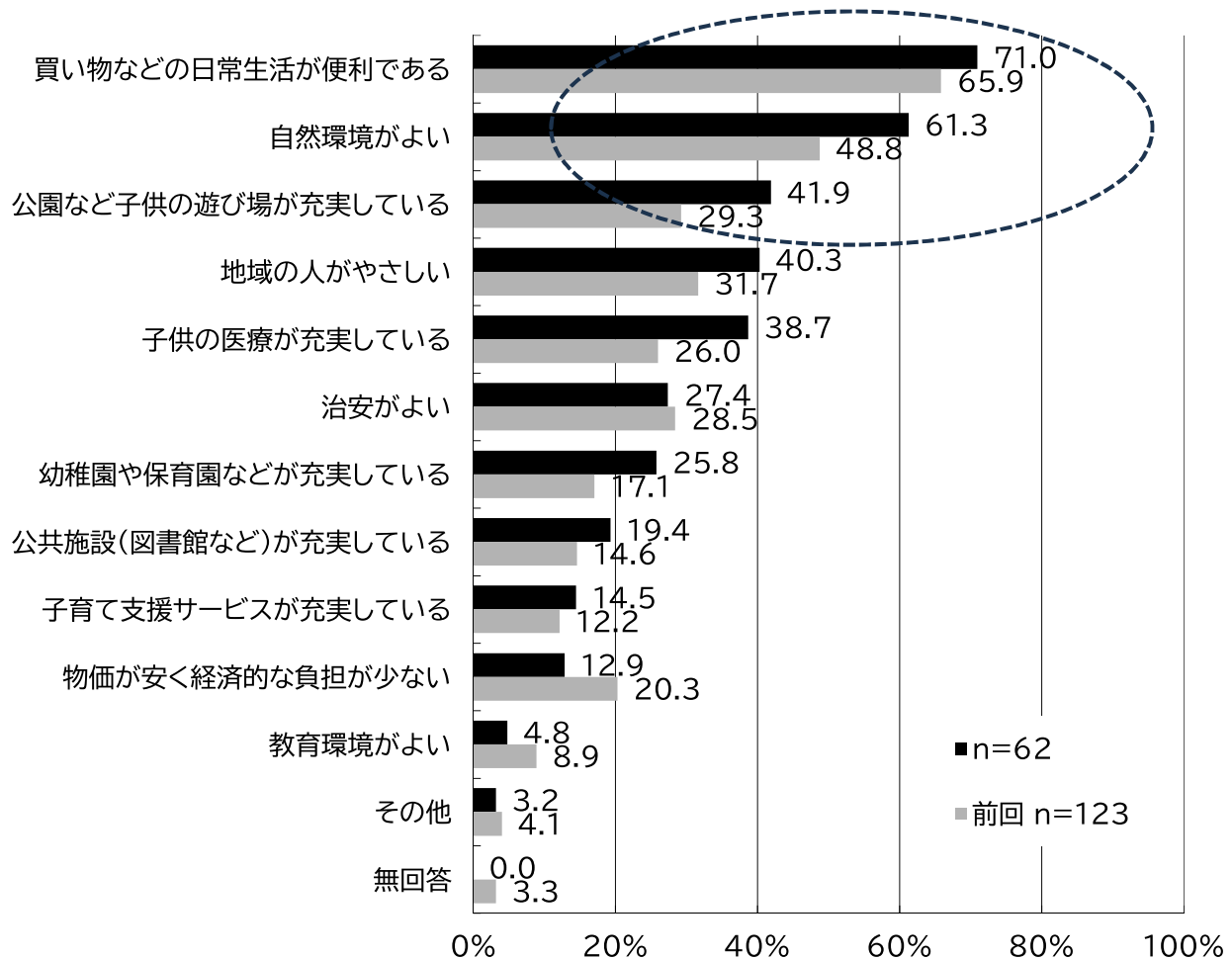
## ⑧座間市の子育ての環境や支援への満足度

「満足している」と「やや満足している」を合わせた肯定的な評価が14.9%と、前回調査（17.1%）から低下しており、肯定的な評価が「やや満足していない」、「満足していない」という否定的な評価（49.0%）を下回っています。



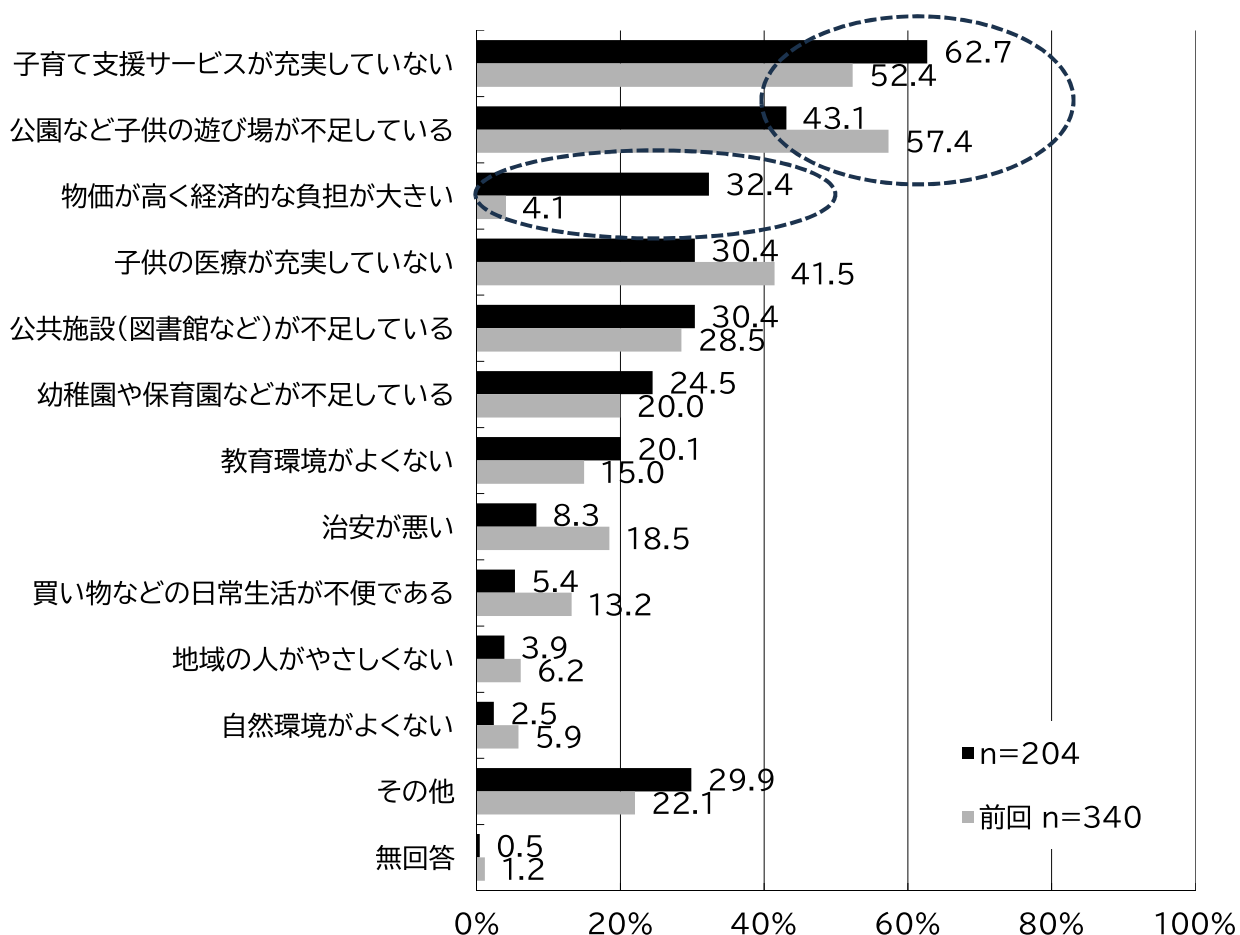
### 〈満足している理由〉（複数回答可）

肯定的な評価の理由は「買い物などの日常生活が便利である」、「自然環境がよい」、「公園など子供の遊び場が充実している」が上位3つで、上位の項目はいずれも前回調査と比べて回答率が上昇しています。



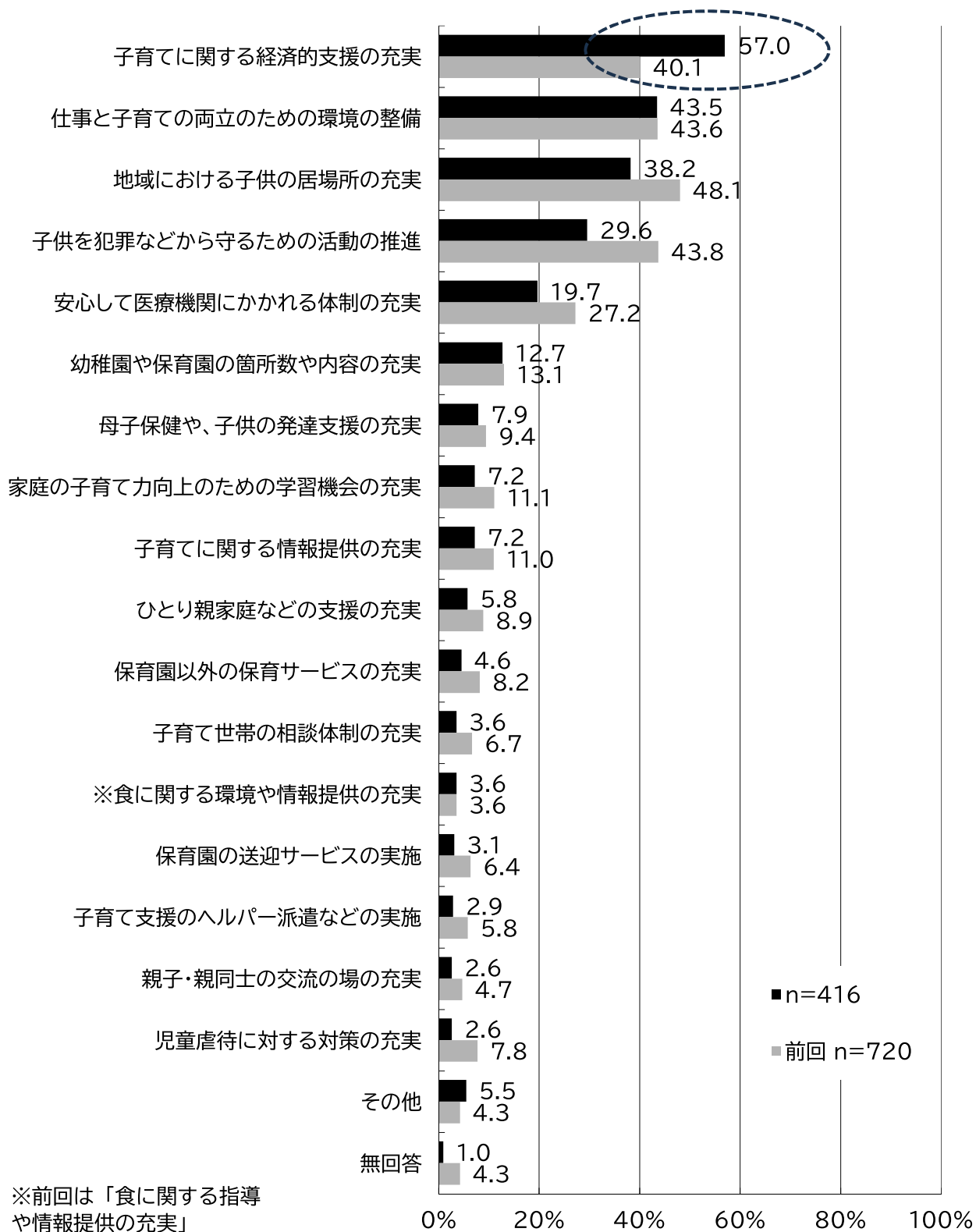
# 〈満足していない理由〉（複数回答可）

否定的な評価の理由は「子育て支援サービスが充実していない」、「公園など子供の遊び場が不足している」、「物価が高く経済的な負担が大きい」が上位3つとなっています。前回調査と比べて、「子育て支援サービスが充実していない」や「物価が高く経済的な負担が大きい」の回答率が上昇している一方、「公園など子供の遊び場が不足している」や「子供の医療が充実していない」との回答が低下しており、未就学児童の保護者調査と同様の傾向となっています。



# ⑨市の子ども・子育て支援策として、今後力を入れていくべきこと（複数回答可）

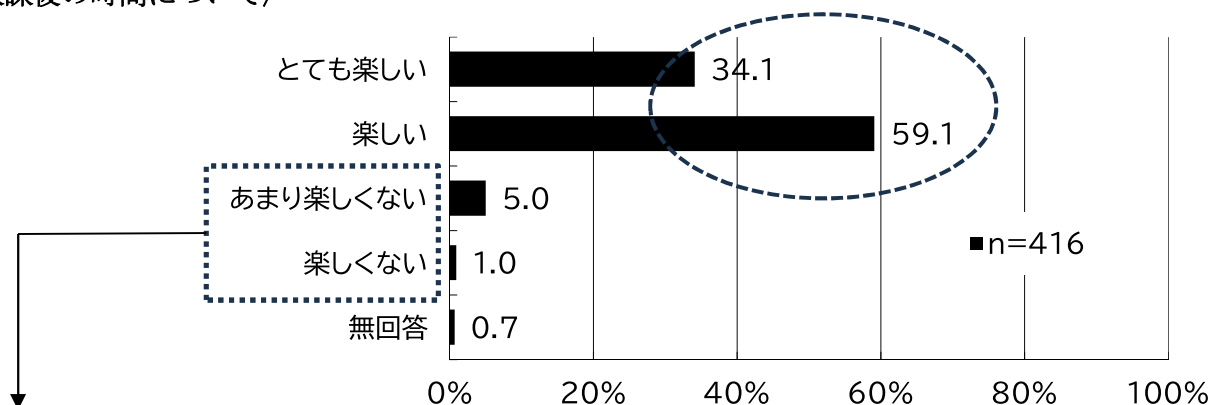
「子育てに関する経済的支援の充実」が57.0%と最も高く、同回答は前回調査と比べて上昇しています。次いで、「仕事と子育ての両立のための環境の整備」、「地域における子供の居場所の充実」、「子供を犯罪などから守るための活動の推進」と続いています。



## ⑩低学年（１～３年生）の子供本人の生活満足度等

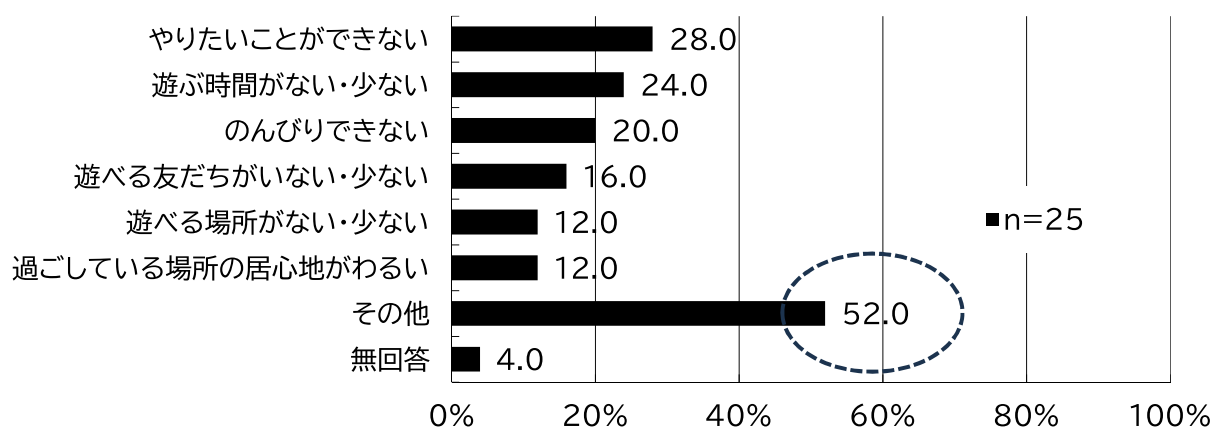
低学年（１～３年生）の子供本人に、放課後の時間について聞いたところ、「とても楽しい」と「楽しい」を合わせた割合が93.2%を占めています。

### 〈放課後の時間について〉



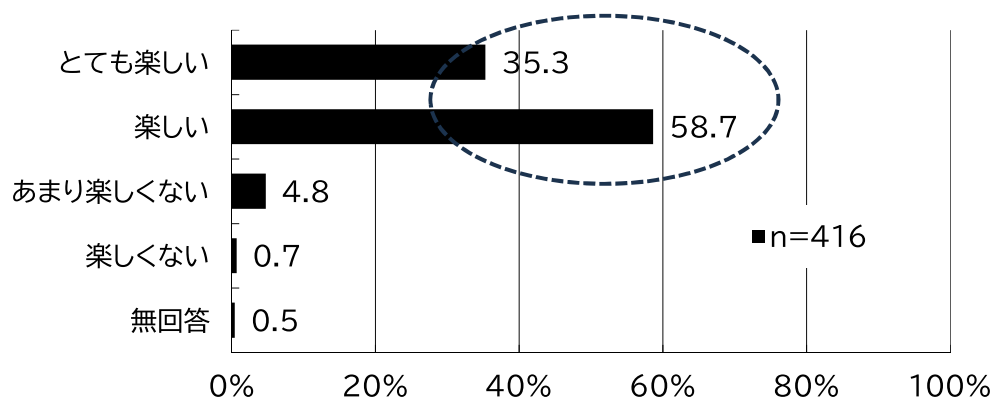
### 〈放課後の時間が楽しくない理由〉（複数回答可）

「その他」（宿題に時間をとられるから、外で遊べないから、児童ホームでの遊び方が自分にあわないから等）が52.0%と最も高く、次いで「やりたいことができない」、「遊ぶ時間がない・少ない」と続いています。



### 〈今の生活（遊びや勉強）について〉

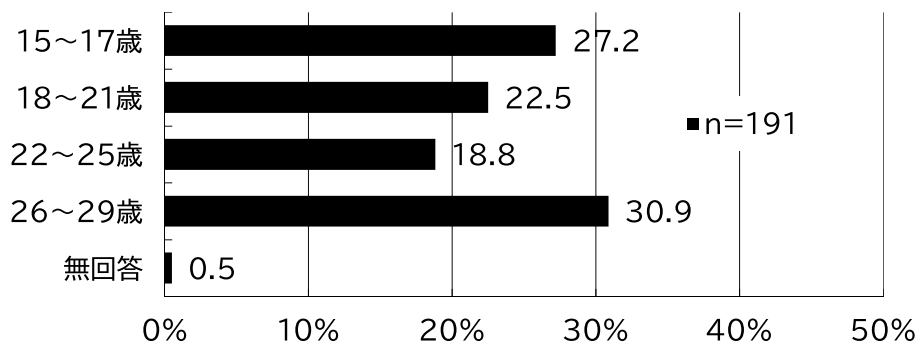
「とても楽しい」と「楽しい」を合わせた割合が94.0%を占めています。



### (3) 若者(15歳～29歳) 調査

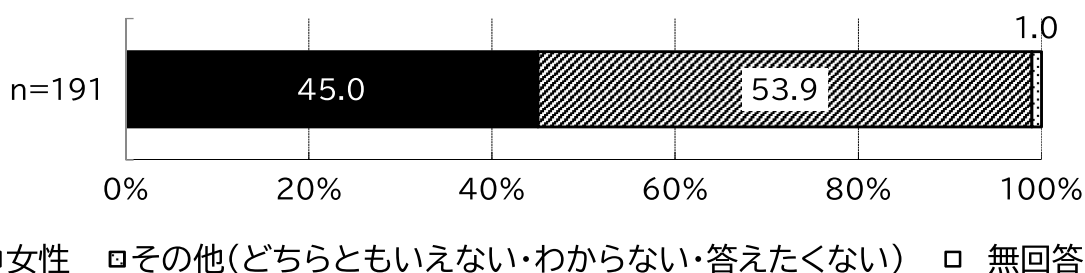
#### ①年齢

「15～17歳」が27.2%、「18～21歳」が22.5%、「22～25歳」が18.8%、「26～29歳」が30.9%となっています。(参考：令和6年4月1日現在の住民基本台帳人口の構成比 15～17歳17.6%、18～21歳24.6%、22～25歳28.1%、26～29歳29.7%)



#### ②性別

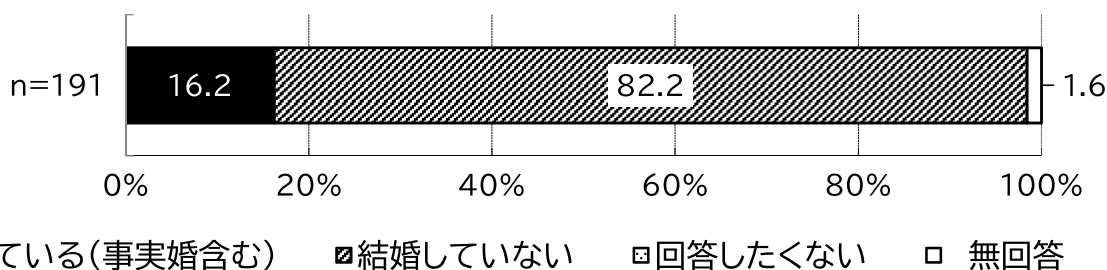
「男性」が45.0%、「女性」が53.9%となっています。(参考：令和6年4月1日現在の住民基本台帳人口の男女比 男性51.8%、女性48.2%)



■男性 ■女性 □その他(どちらともいえない・わからない・答えたくない) □ 無回答

#### ③既婚・未婚

「結婚している (事実婚含む)」が16.2%、「結婚していない」が82.2%となっています。



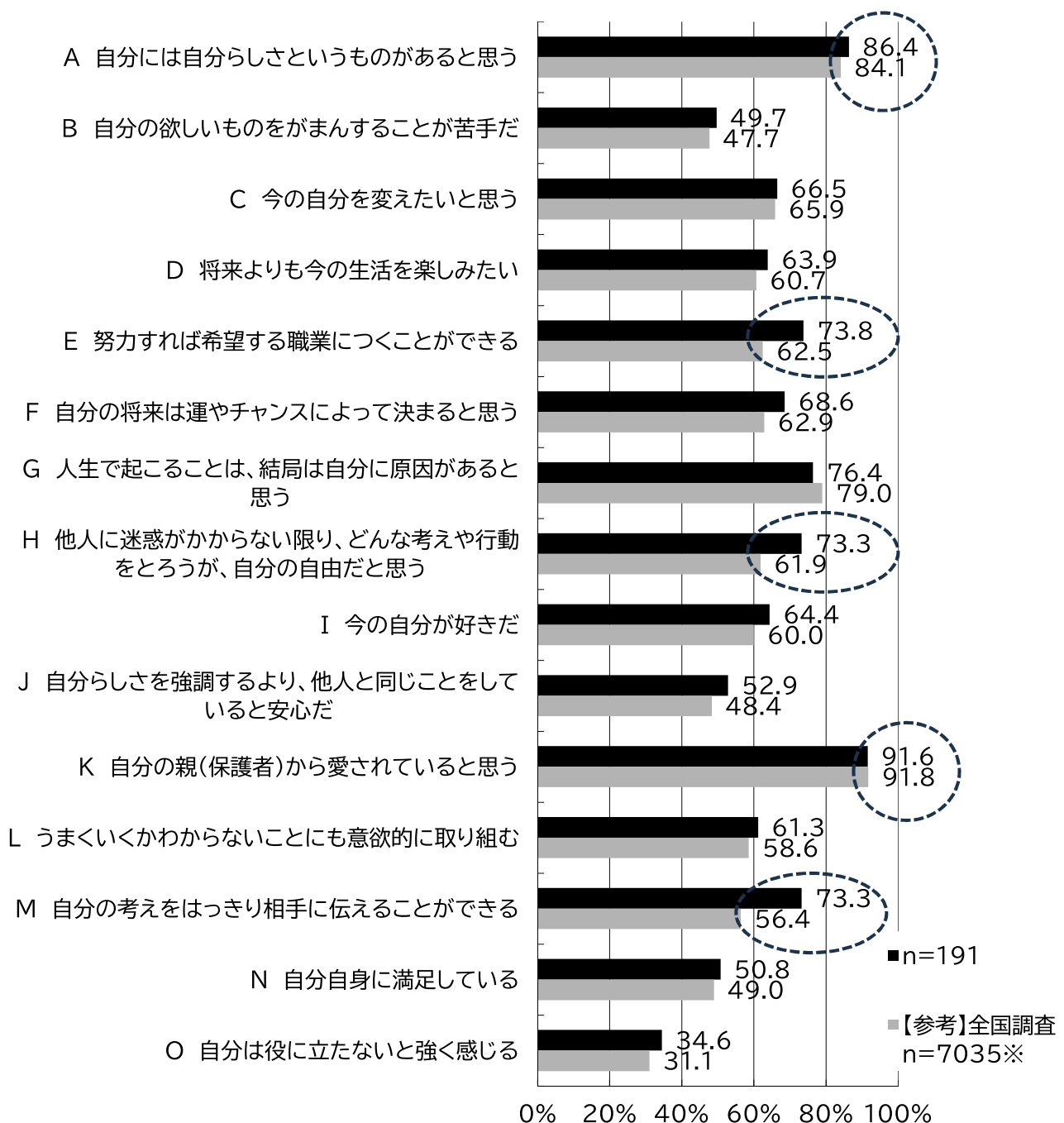
■結婚している(事実婚含む) ■結婚していない □回答したくない □ 無回答

#### ④自己診断

「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」を合わせた割合が最も高いのは、“K 自分の親（保護者）から愛されていると思う”が91.6%と、9割以上が親子関係を肯定的にとらえています。次いで、“A 自分には自分らしさというものがあると思う”が86.4%と続いています。

対象年齢が異なるため（全国調査には30代を含む）、参考比較となりますが、全国調査と比べて“E 努力すれば希望する職業につくことができる”や“H 他人に迷惑がかからない限り、どんな考えや行動をとろうが、自分の自由だと思う”、“M 自分の考えをはっきり相手に伝えることができる”については、全国調査の割合を上回る水準となっています。

〈「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示した中で、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合〉

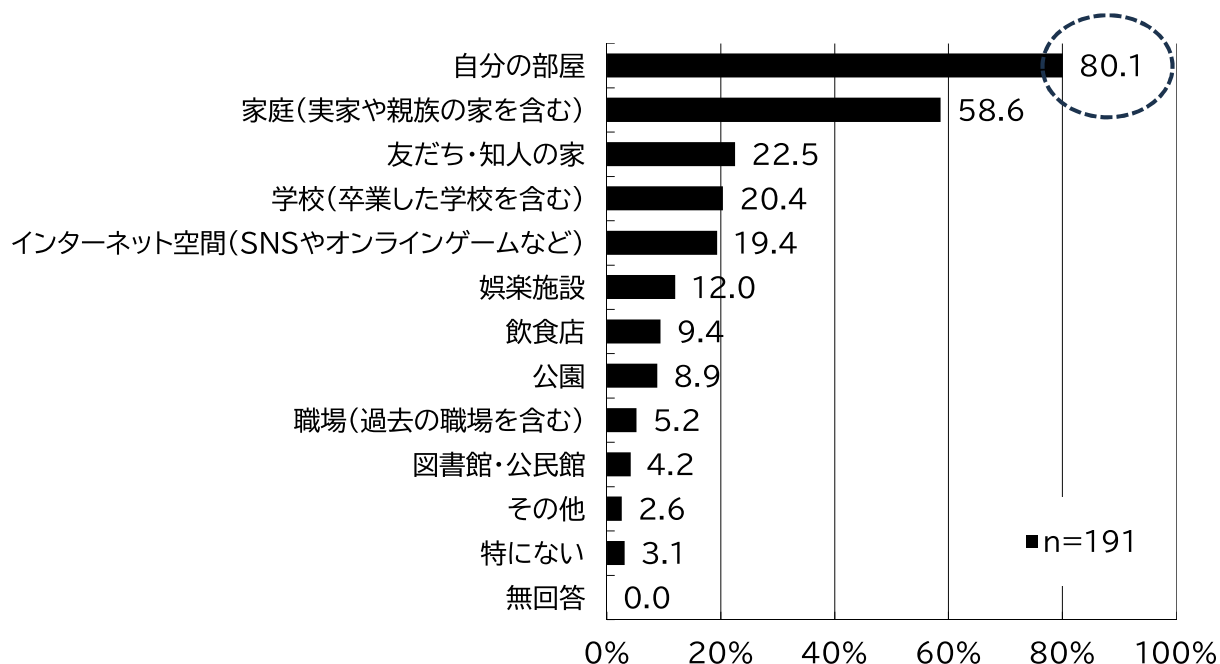


※【参考】全国調査は、内閣府「子ども・若者の意識と生活に関する調査（令和4年度）」の15歳～39歳対象調査（以降も同様）



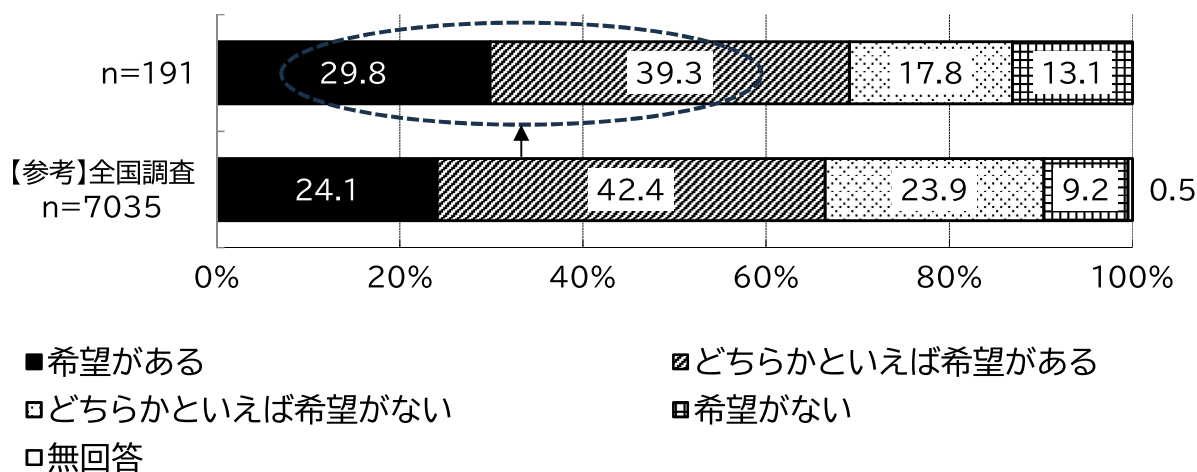
## ⑤日常的にほっとできる、居心地のよい場所（複数回答可）

「自分の部屋」が80.1%と最も高く、次いで「家庭（実家や親族の家を含む）」が58.6%、「友だち・知人の家」が22.5%と続いています。



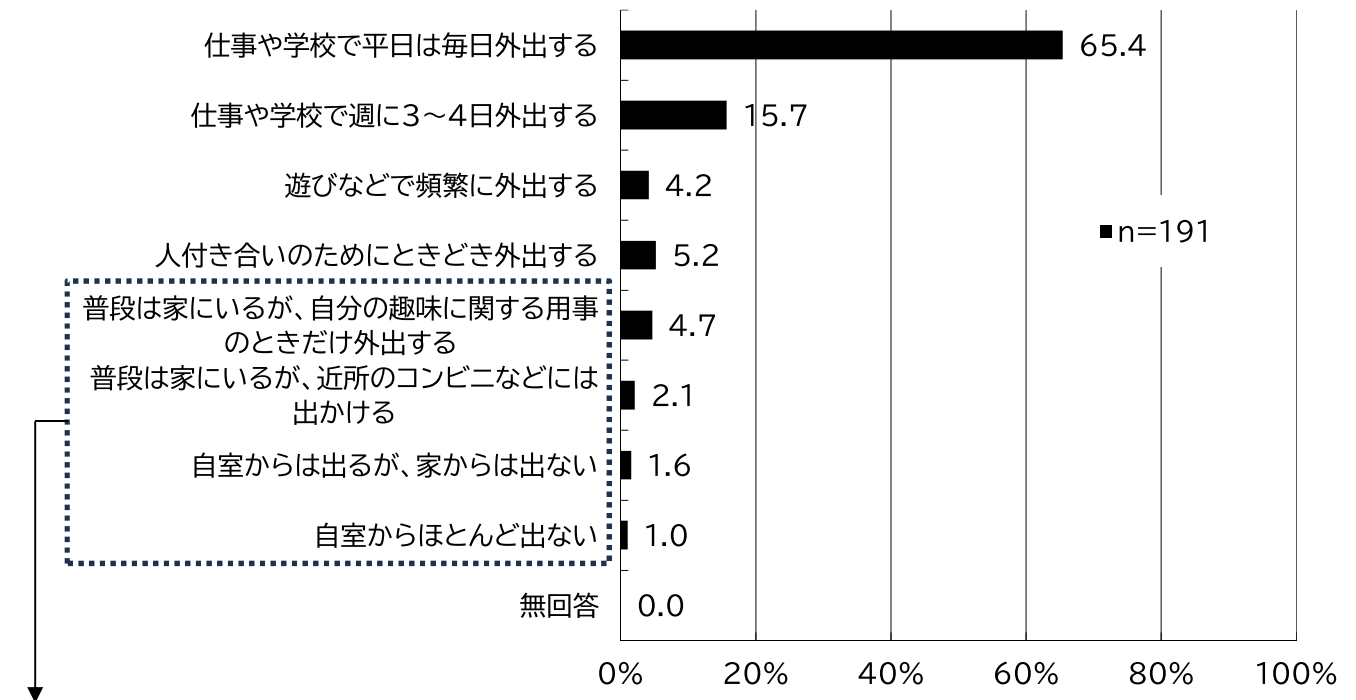
## ⑥自分の将来についての明るい希望

「どちらかといえば希望がある」が39.3%と最も高くなっています。「希望がある」と「どちらかといえば希望がある」を合わせた割合が約7割（69.1%）となっており、対象年齢が異なるため（全国調査には30代を含む）、参考比較となりますが、同割合に全国調査との大きな差は見られません。



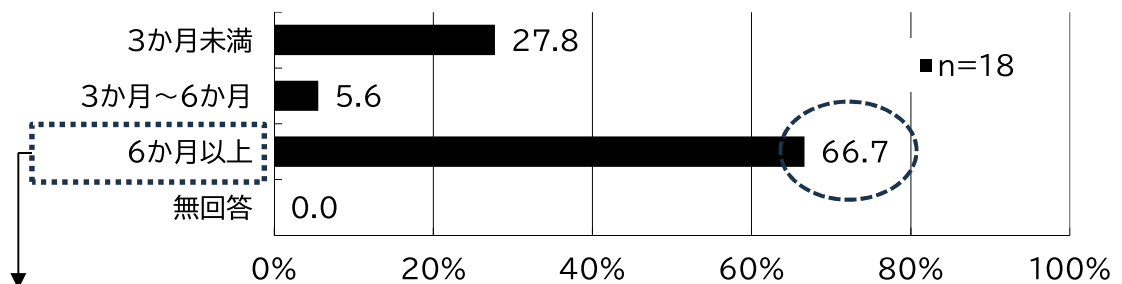
## ⑦外出の状況

外出頻度が低い状態にある人について見ると、「普段は家にいるが、自分の趣味に関する用事的时候だけ外出する」が4.7%（参考：全国調査5.2%）、「普段は家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」が2.1%（参考：全国調査3.6%）、「自室からは出るが、家からは出ない」が1.6%（参考：全国調査0.7%）、「自室からほとんど出ない」が1.0%（参考：全国調査0.2%）となっており、合わせて約1割（9.4%）（参考：全国調査9.7%）となっています。



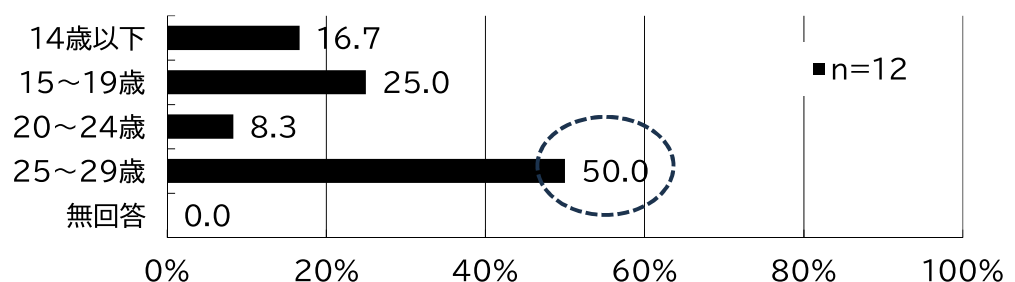
### 〈外出状況が現在の状態となつてからの期間〉

「6か月以上」が66.7%となっています。



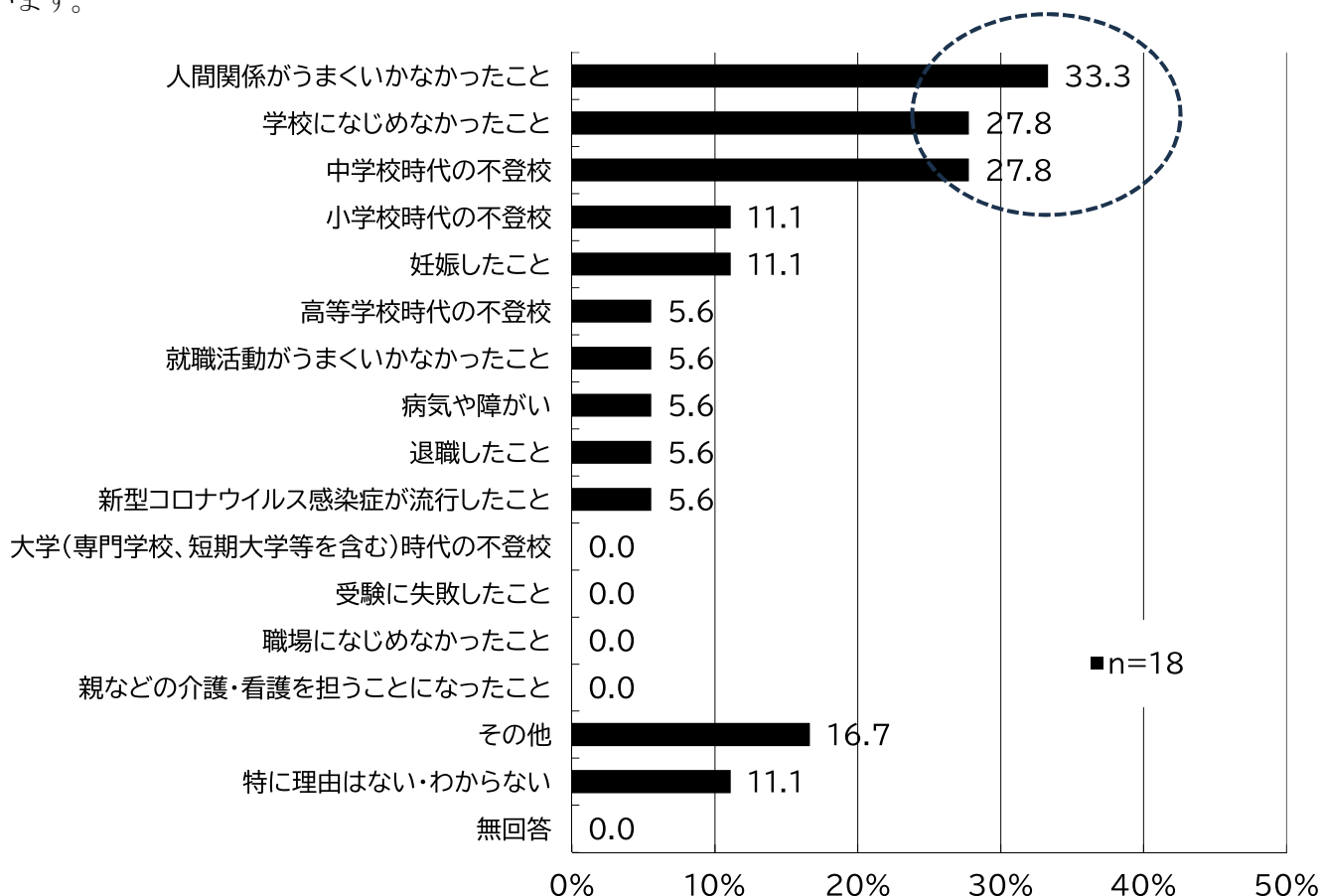
### 〈外出状況が現在の状態となった年齢〉

外出頻度の低い人のうち、現在の外出状況となつてからの期間が6か月以上である人に、今の状況になった年齢を聞いたところ、「25～29歳」が50.0%と最も高く、これは全国調査の傾向と同様です。



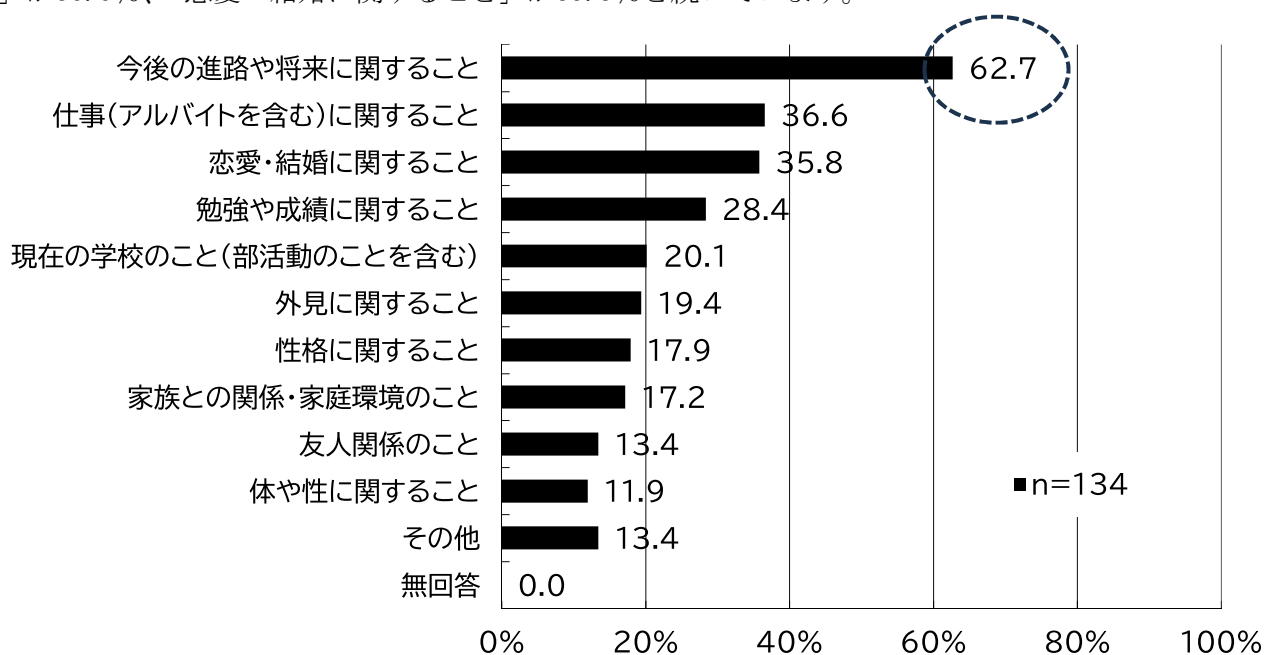
### 〈外出状況が現在の状態となった主な理由〉（複数回答可）

外出頻度の低い人に、今の状況になった理由を聞いたところ、「人間関係がうまくいかなかったこと」が33.3%で最も高く、次いで「学校になじめなかったこと」、「中学校時代の不登校」が27.8%と続いています。



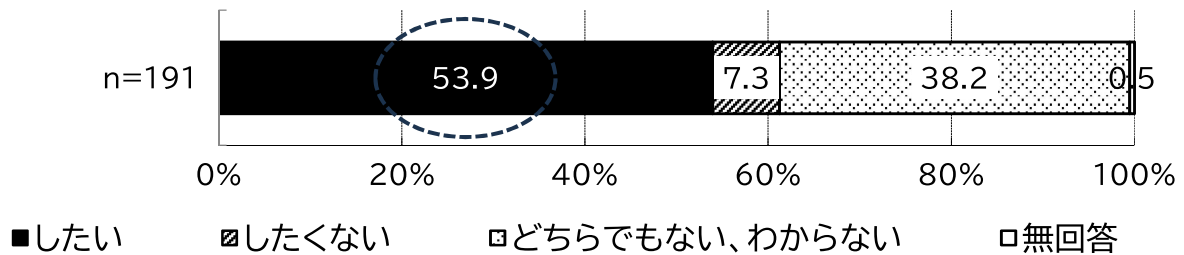
### ⑧現在抱えている悩みや困りごと（複数回答可）

「今後の進路や将来に関すること」が62.7%と最も高く、次いで「仕事（アルバイトを含む）に関すること」が36.6%、「恋愛・結婚に関すること」が35.8%と続いています。



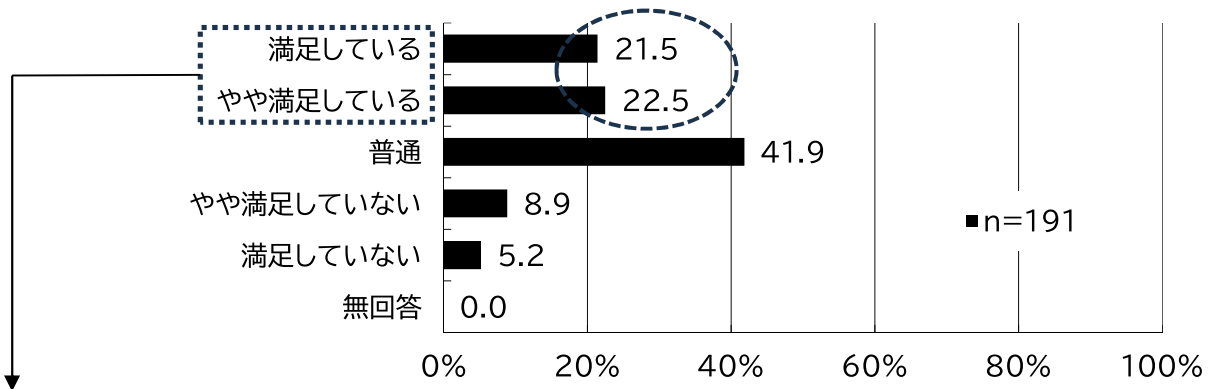
## ⑨結婚について

「したい」が53.9%と最も高く、次いで「どちらでもない、わからない」が38.2%、「したくない」が7.3%と続いています。



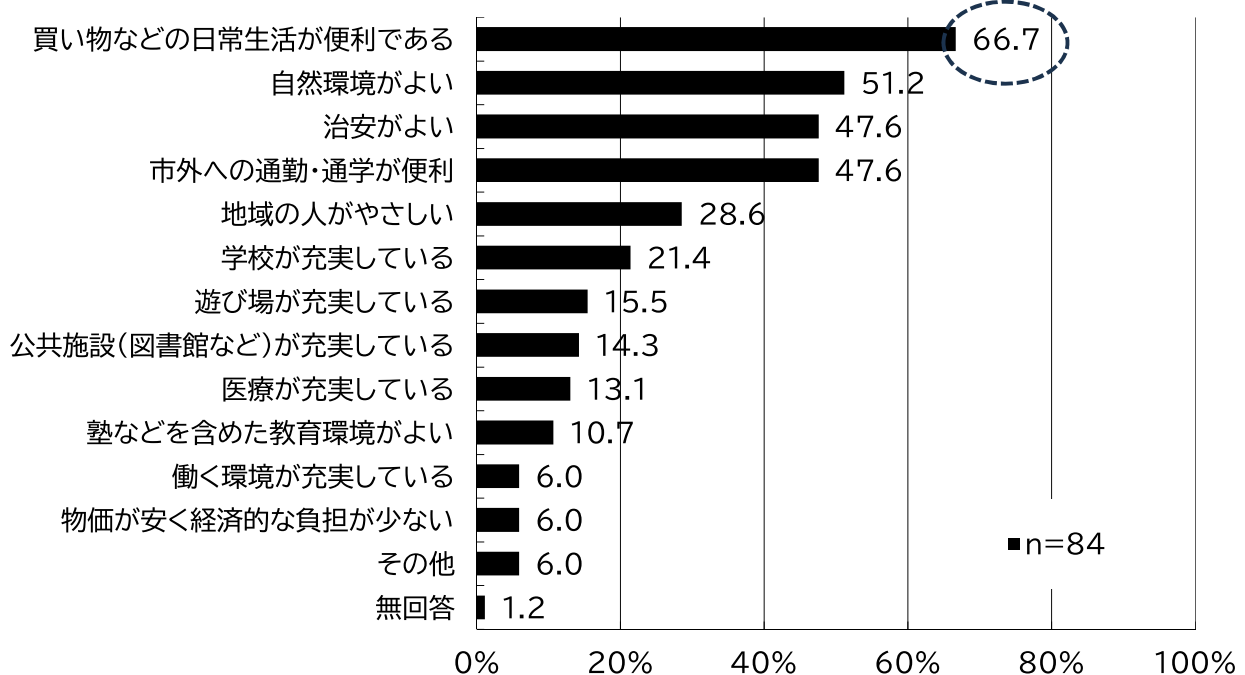
## ⑩座間市での生活の満足度

「満足している」と「やや満足している」を合わせた肯定的な評価が44.0%と、「やや満足していない」、「満足していない」という否定的な評価（14.1%）を上回っています。



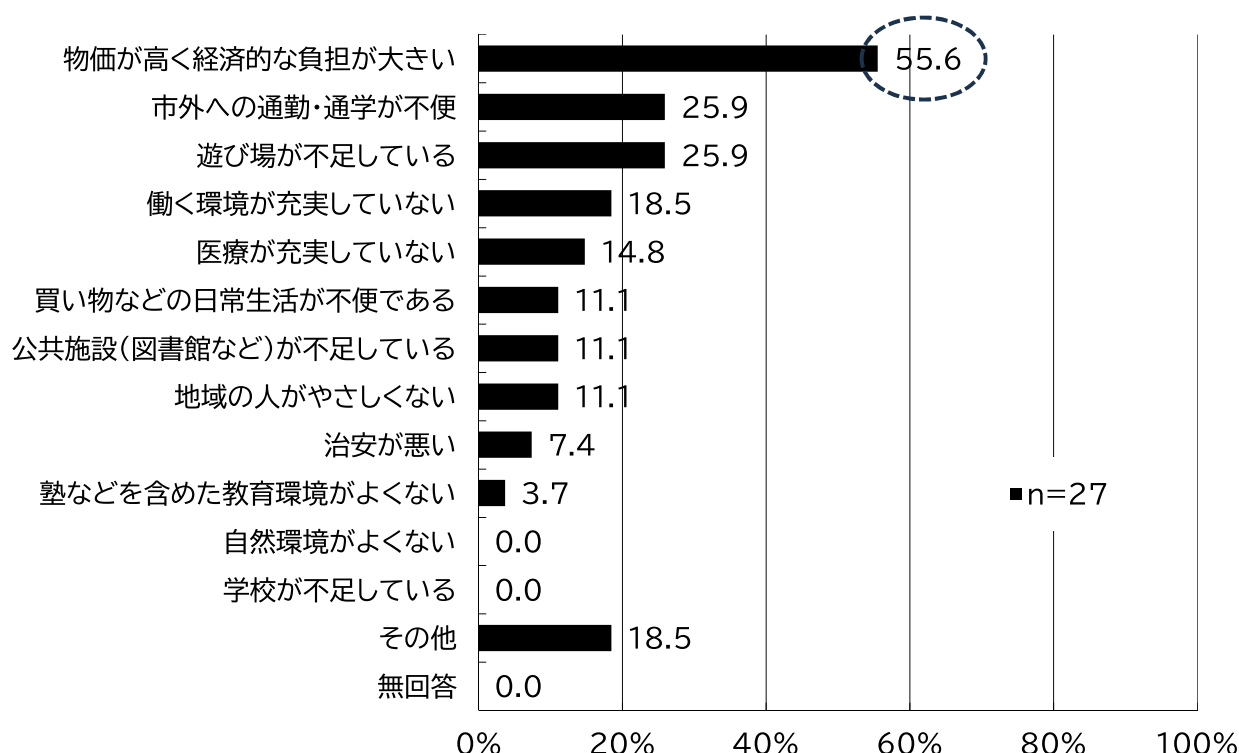
### 〈満足している理由〉（複数回答可）

肯定的な評価の理由は「買い物などの日常生活が便利である」が66.7%と最も高く、次いで「自然環境がよい」が51.2%、「治安がよい」、「市外への通勤・通学が便利」が47.6%となっています。



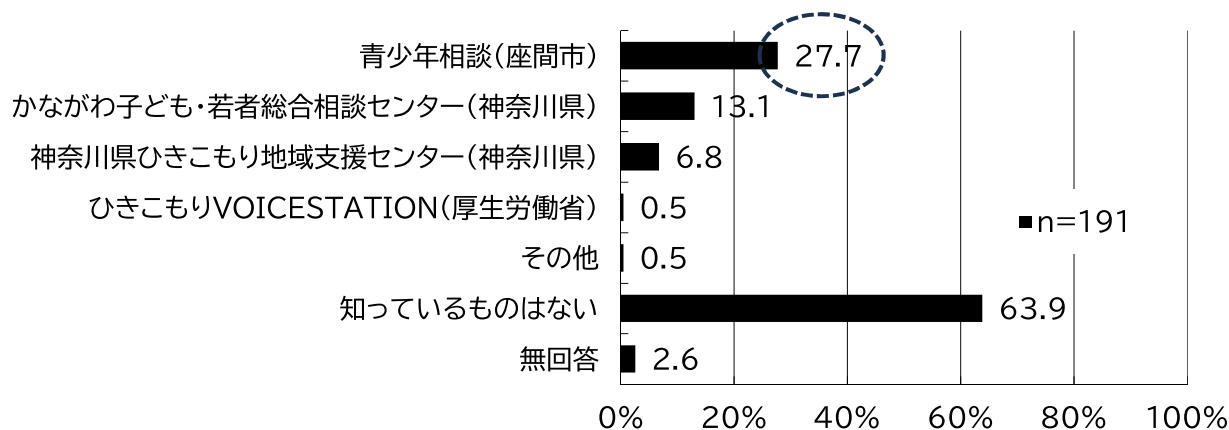
### 〈満足していない理由〉（複数回答可）

否定的な評価の理由は「物価が高く経済的な負担が大きい」が55.6%と最も高く、次いで「市外への通勤・通学が不便」、「遊び場が不足している」が25.9%、「働く環境が充実していない」が18.5%と続いています。



### ⑪座間市や近隣にある子供・若者向けの相談事業や機関で知っているもの（複数回答可）

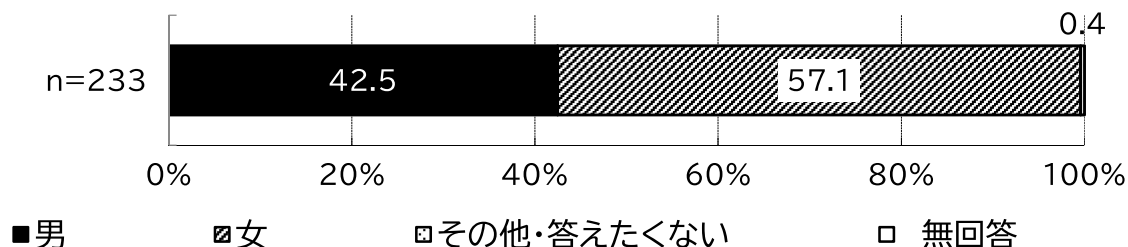
「知っているものはない」が63.9%と最も高く、次いで「青少年相談（座間市）」が27.7%、「かながわ子ども・若者総合相談センター（神奈川県）」が13.1%と続いています。



## (4) 小学5年生調査

### ①性別

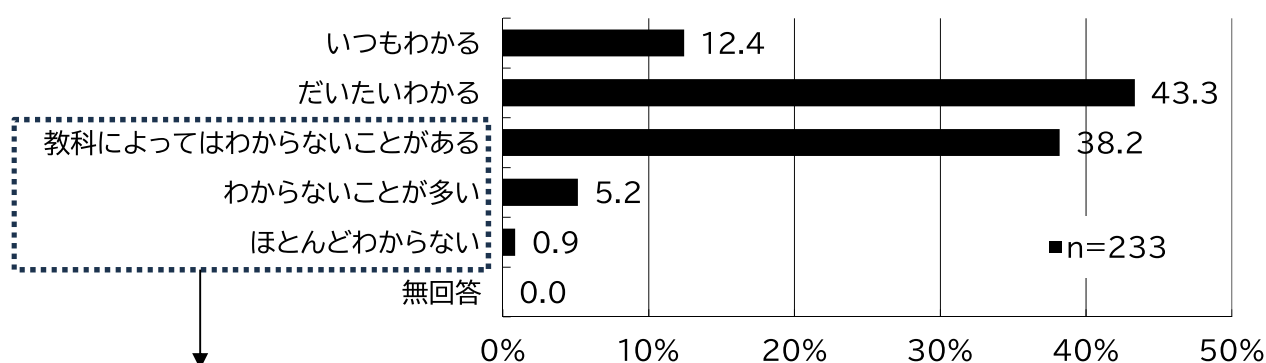
「男」が42.5%、「女」が57.1%となっています。(参考：令和6年4月1日現在の住民基本台帳人口の男女比 男性49.2%、女性50.8%)



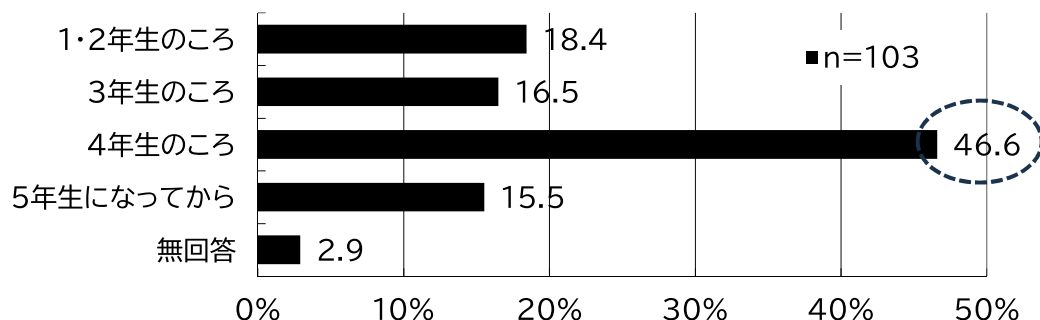
### ②学校の授業について

学校の授業について、「教科によってはわからないことがある」、「わからないことが多い」、「ほとんどわからない」を合わせた割合は44.3%となっています。その回答者に授業がわからなくなった時期を聞いたところ、「4年生のころ」が46.6%と最も高く、次いで「1・2年生のころ」が18.4%と続いています。

#### 〈授業の理解度〉



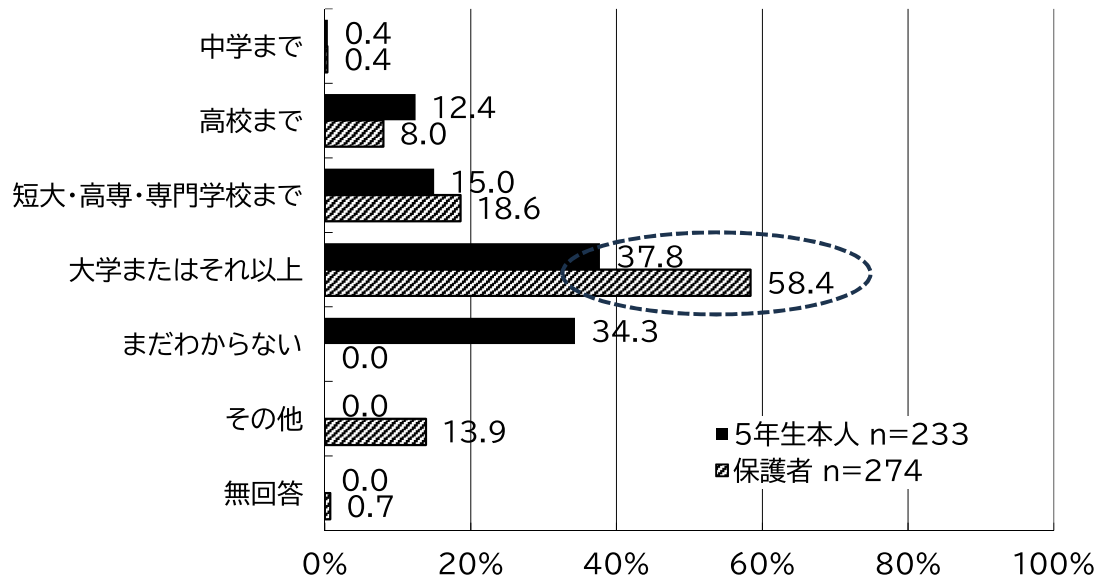
#### 〈授業がわからなくなった時期〉



### ③将来の進学について

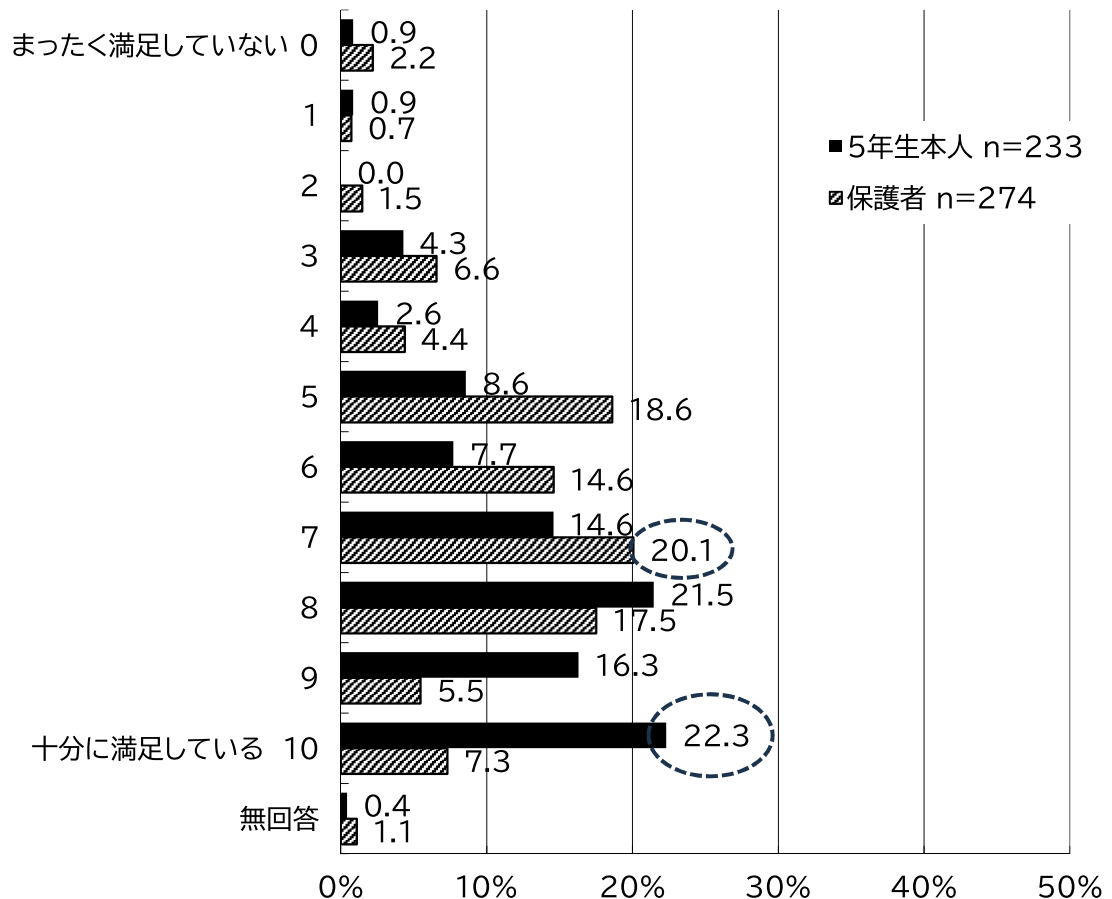
将来の進学について、小学5年生本人は「大学またはそれ以上」が37.8%と最も高く、次いで「まだわからない」が34.3%と続いています。

一方、小学5年生の保護者が考える子供の将来の進学は、「大学またはそれ以上」が58.4%と最も高く、次いで「短大・高専・専門学校まで」が18.6%と続いています。



### ④最近の生活の満足度（0～10段階の評価）について

最近の生活の満足度は、小学5年生本人は「10：十分に満足している」が22.3%、「8」が21.5%と、これらが上位2つの一方、小学5年生の保護者は「7」が20.1%、「5」が18.6%と、これらが上位2つとなっています。

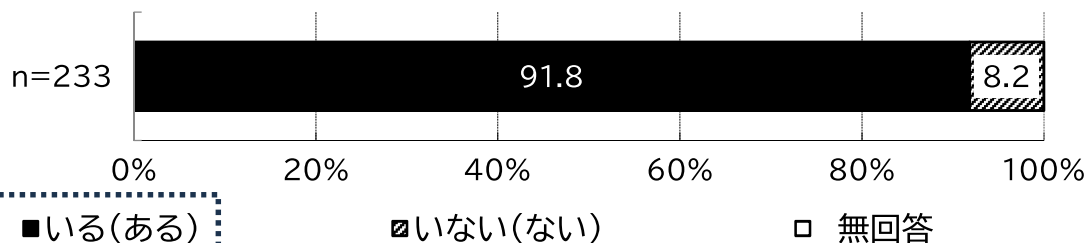


## ⑤自分の気持ちや考えを素直に話することができる相手（場所）について

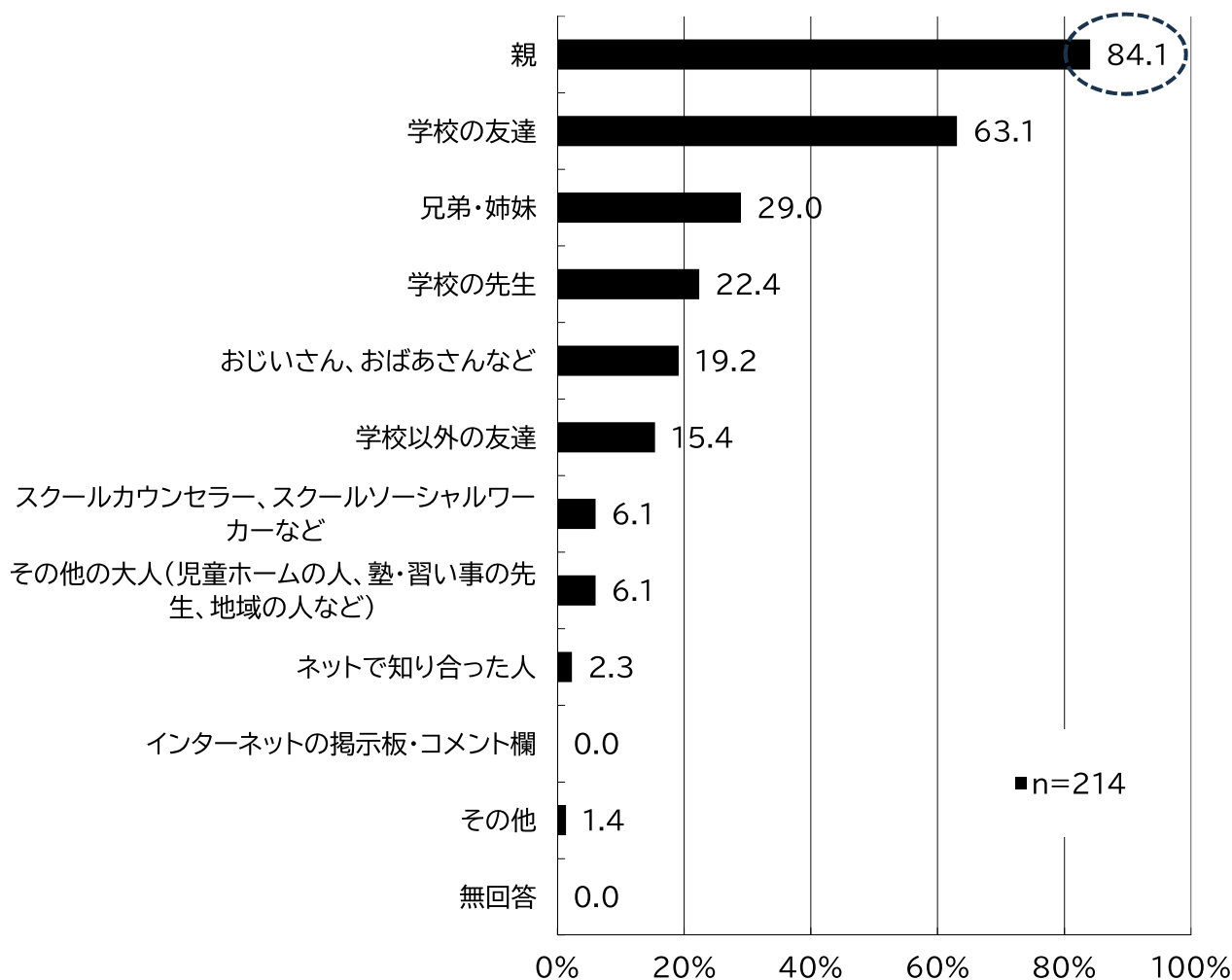
自分の気持ちや考えを素直に話することができる相手（場所）について、「いる（ある）」が91.8%、「いない（ない）」が8.2%となっています。

「いる（ある）」場合の相手や場所は、「親」が84.1%と最も高く、次いで「学校の友達」が63.1%、「兄弟・姉妹」が29.0%と続いています。

### 〈自分の気持ちや考えを素直に話することができる相手（場所）の有無〉



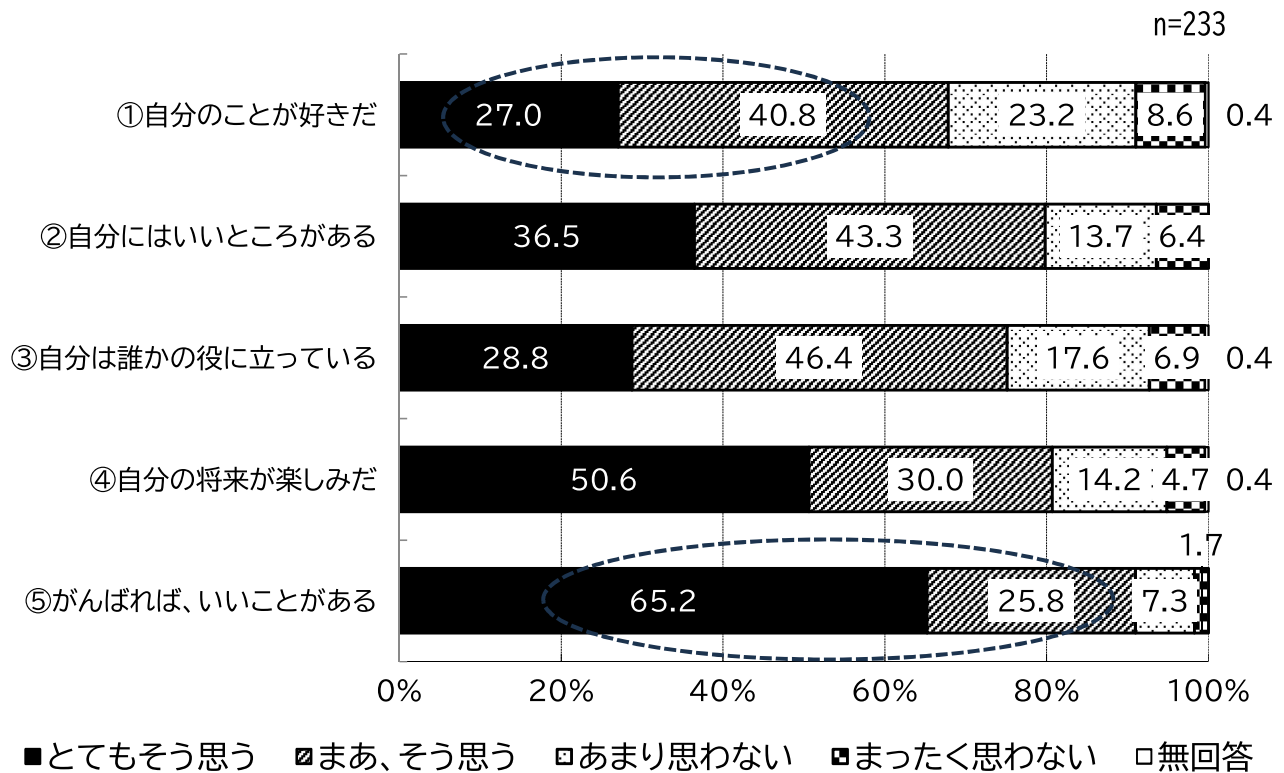
〈その相手（場所）〉（複数回答可）





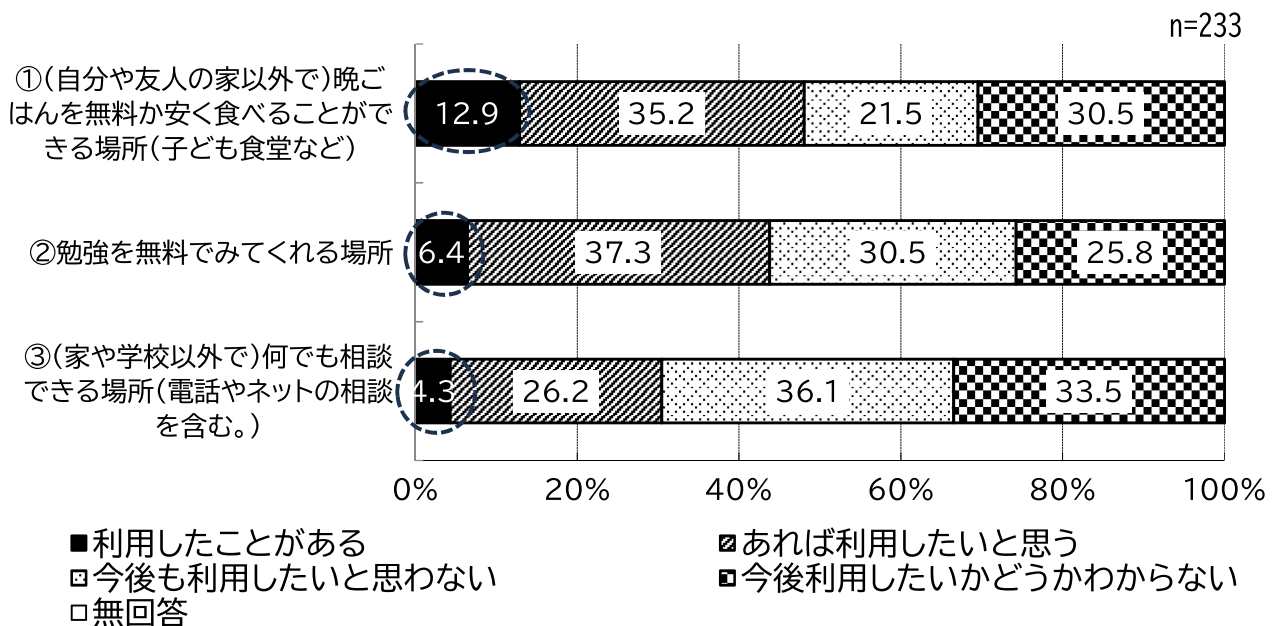
## ⑥自己肯定感について

“①自分のことが好きだ”ということについては、「とてもそう思う」と「まあ、そう思う」を合わせた割合が約7割（67.8%）となっています。また、“⑤がんばれば、いいことがある”ということについては、同割合が91.0%と同割合が最も高くなっています。



## ⑦子供の居場所や相談場所の利用について

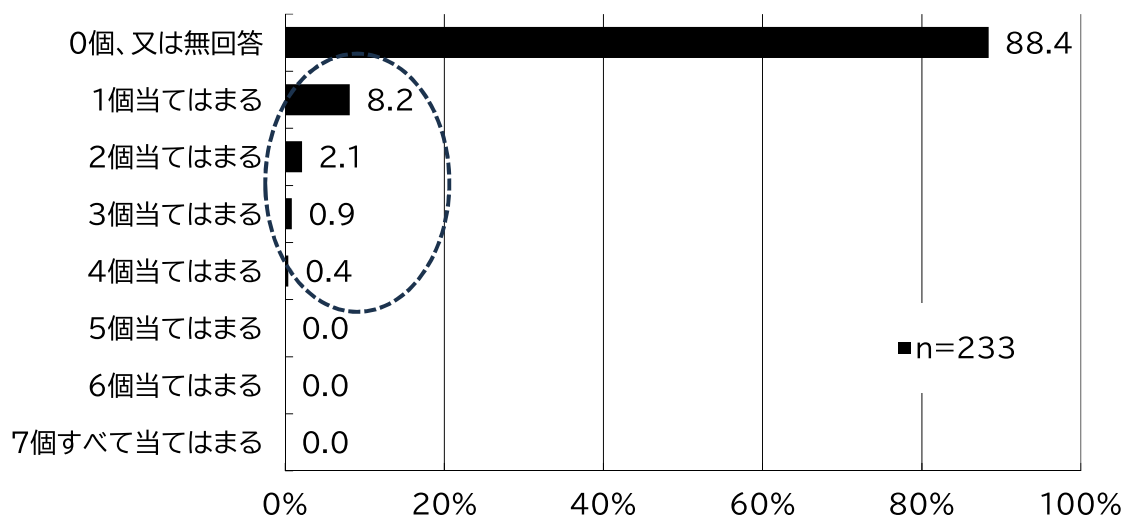
「利用したことがある」という回答率は、“①（自分や友人の家以外で）晩ごはんを無料か安く食べることができる場所（子ども食堂など）”が12.9%、“②勉強を無料でみてくれる場所”が6.4%、“③（家や学校以外で）何でも相談できる場所（電話やネットの相談を含む。）”が4.3%となっています。



## ⑧逆境体験について

次のa～hの項目に関する該当状況を見ると、「1個当てはまる」が8.2% (19人)、「2個当てはまる」が2.1% (5人)、「3個当てはまる」が0.9% (2人)、「4個当てはまる」が0.4% (1人)となっており、1個以上当てはまる割合は11.6%となっています。

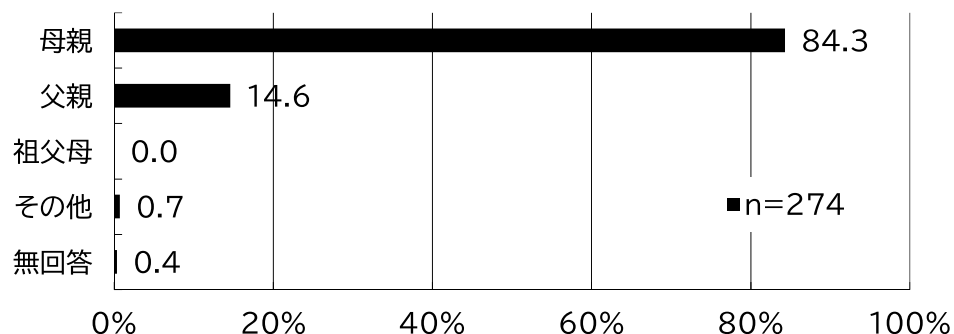
- a 一緒に住んでいる大人から、あなたの悪口を言われる、けなされる、恥をかかされる、または、身体を傷つけられる危険を感じるようなふるまいをされることがよくある
- b 一緒に住んでいる大人から、押される、掴まれる、叩かれる、物を投げつけられる、体を触られるなど嫌な思いをすることがよくある。または、怪我をするほど強く殴られたことが一度でもある
- c 家族の誰からも愛されていない、大切にされていない、支えてもらえていないと感ずることがある
- d 必要な食事や衣服を与えられなかったり、自分を守ってくれる人は誰もいないと感ずることがある
- e 一緒に住んでいる家族が、誰かに押されたり、掴まれたり、蹴られたりしたことがよくある、または、繰り返し殴られたり、刃物などで脅されたことが一度でもある
- f 一緒に住んでいる人に、お酒を飲んだり薬などで自身の生活や人間関係を損なうような振舞いをした人がある
- g 一緒に住んでいる人に、心の病気で元気のない人がある



## (5) 小学5年生の保護者調査

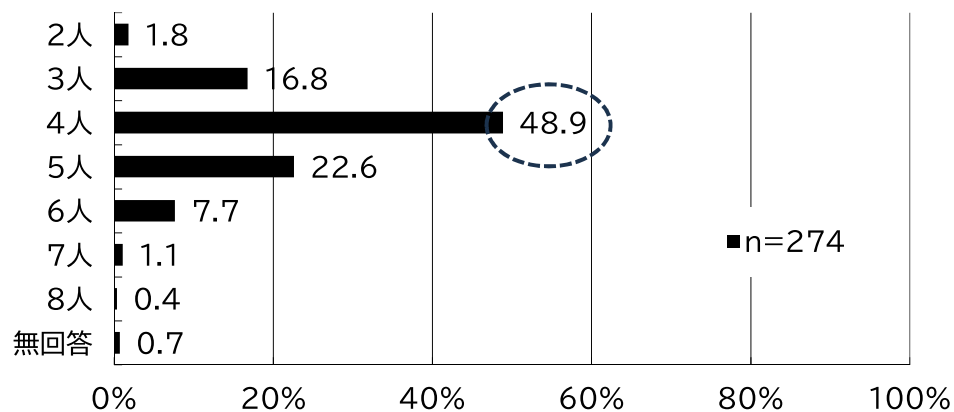
### ①子供から見た続柄

「母親」が84.3%、「父親」が14.6%となっています。



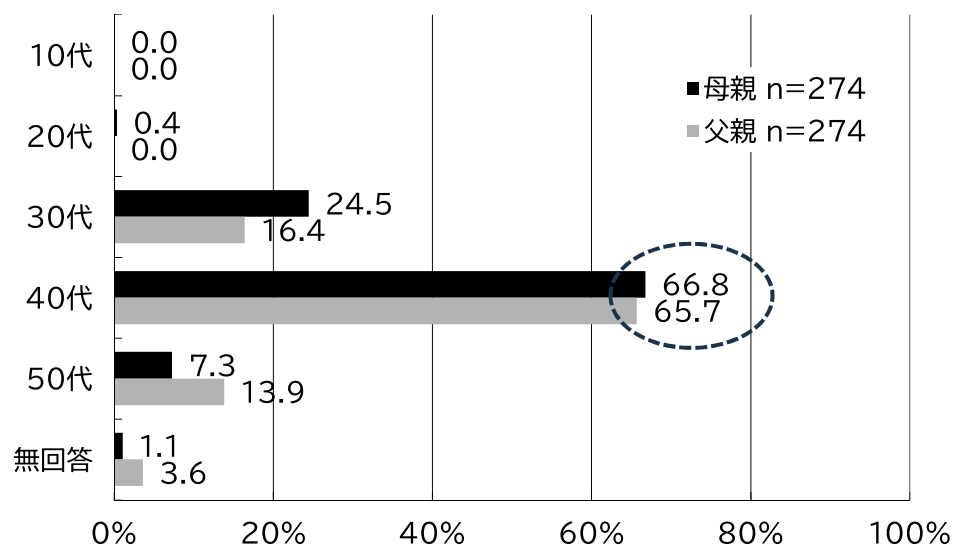
### ②生計を同一する家族の人数

「4人」が48.9%と最も高く、次いで「5人」が22.6%と続いています。



### ③母親・父親の年齢

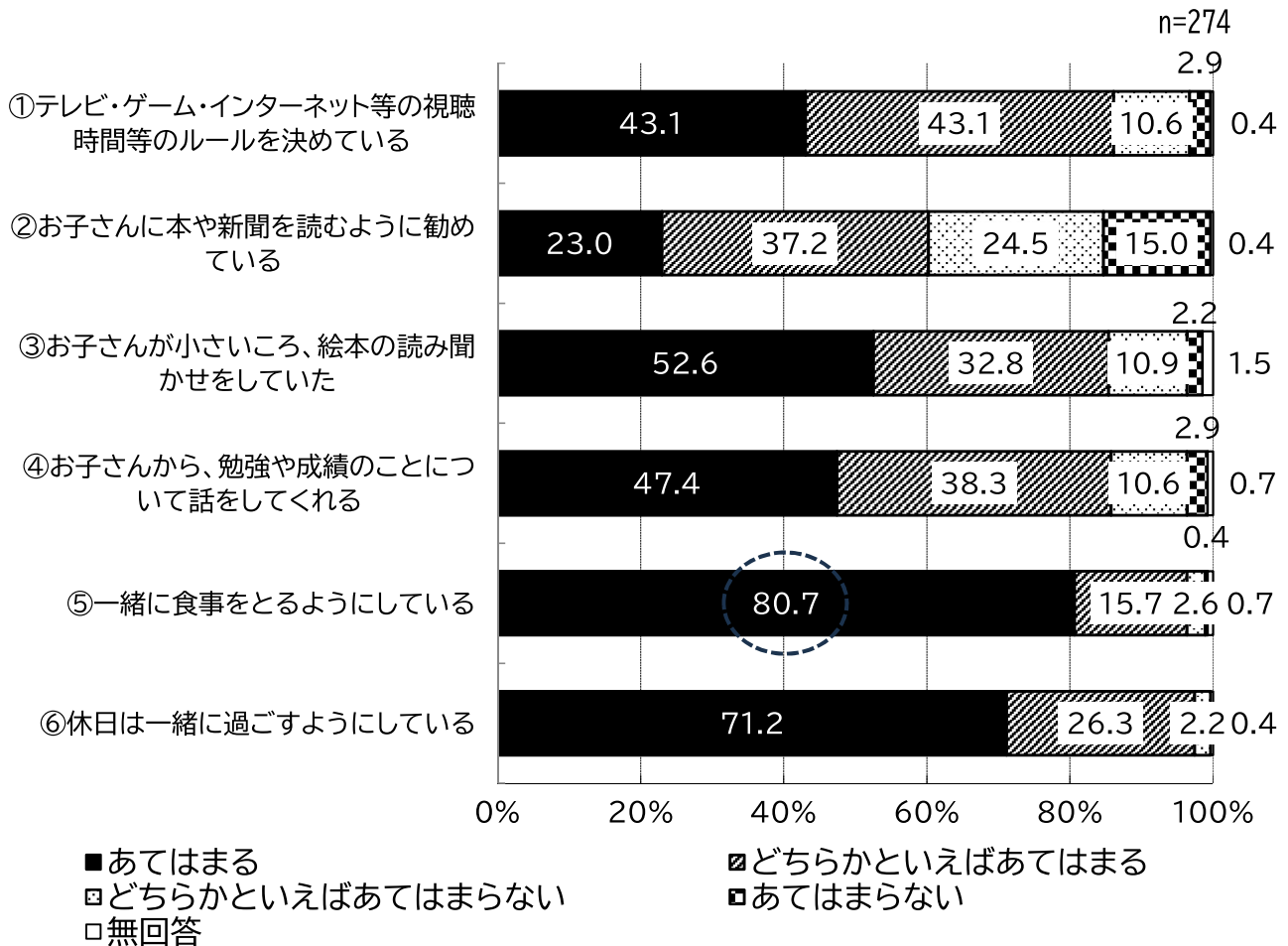
母親、父親ともに、「40代」が60%台で最も高く、次いで「30代」、「50代」と続いています。



#### ④子供との関わり方について

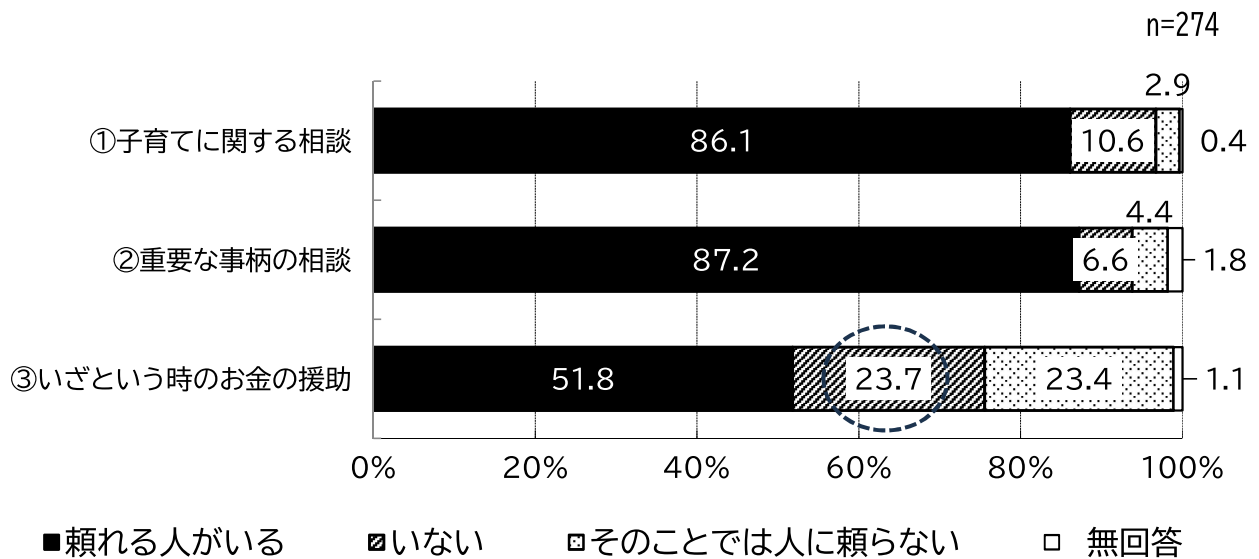
「あてはまる」という割合は、“⑤一緒に食事をするようにしている”が80.7%と最も高く、次いで“⑥休日は一緒に過ごすようにしている”が71.2%と続いています。

そのほかの項目は、“①テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルールを決めている”が43.1%、“②お子さんに本や新聞を読むように勧めている”が23.0%、“③お子さんが小さいころ、絵本の読み聞かせをしていた”が52.6%、“④お子さんから、勉強や成績のことについて話をしてくれる”が47.4%となっています。



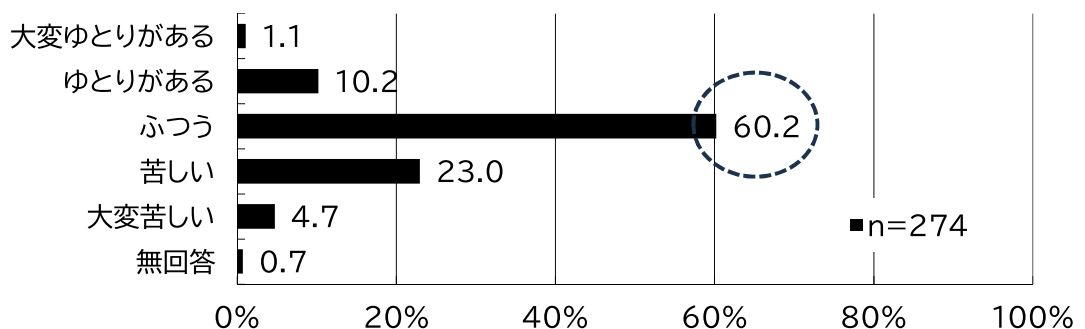
## ⑤頼れる人の有無

「いない」という割合は、“①子育てに関する相談”が10.6%、“②重要な事柄の相談”が6.6%、“③いざという時のお金の援助”が23.7%となっています。



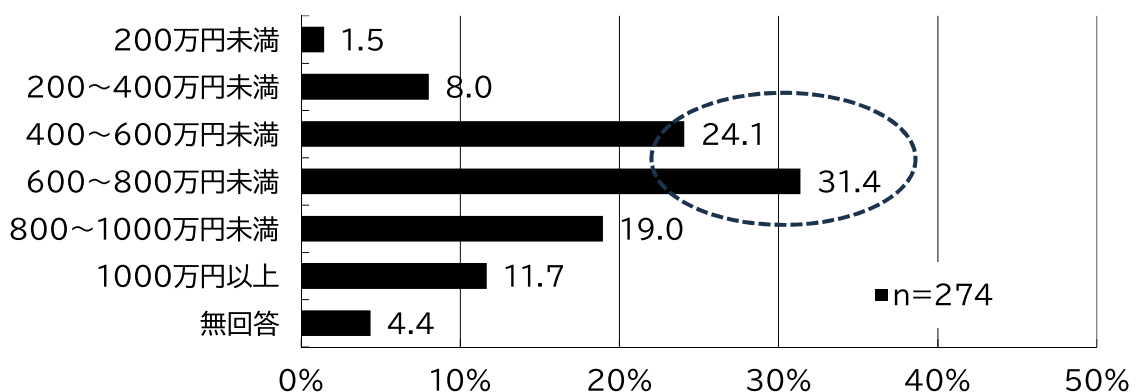
## ⑥現在の暮らしの状況

「ふつう」が60.2%と最も高く、次いで「苦しい」が23.0%と続いており、「苦しい」と「大変苦しい」を合わせた割合は27.7%となっています。



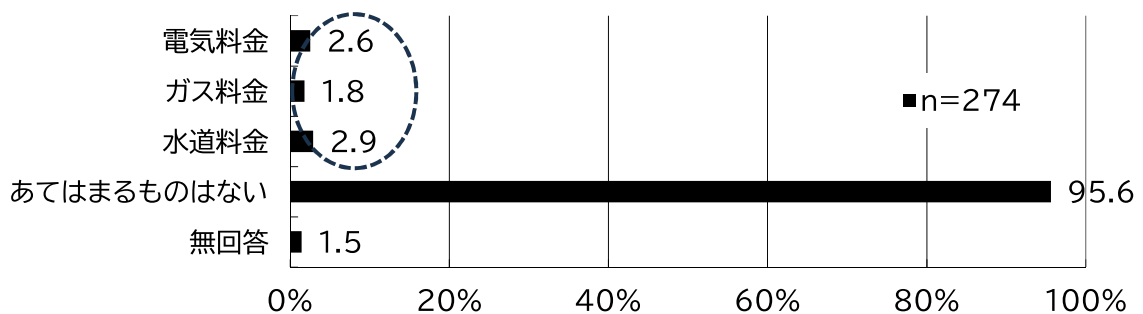
## ⑦世帯全体のおおよその年間収入（税込）

「600～800万円未満」が31.4%、「400～600万円未満」が24.1%と最も高く、これら世帯収入が半数以上（55.5%）を占めています。



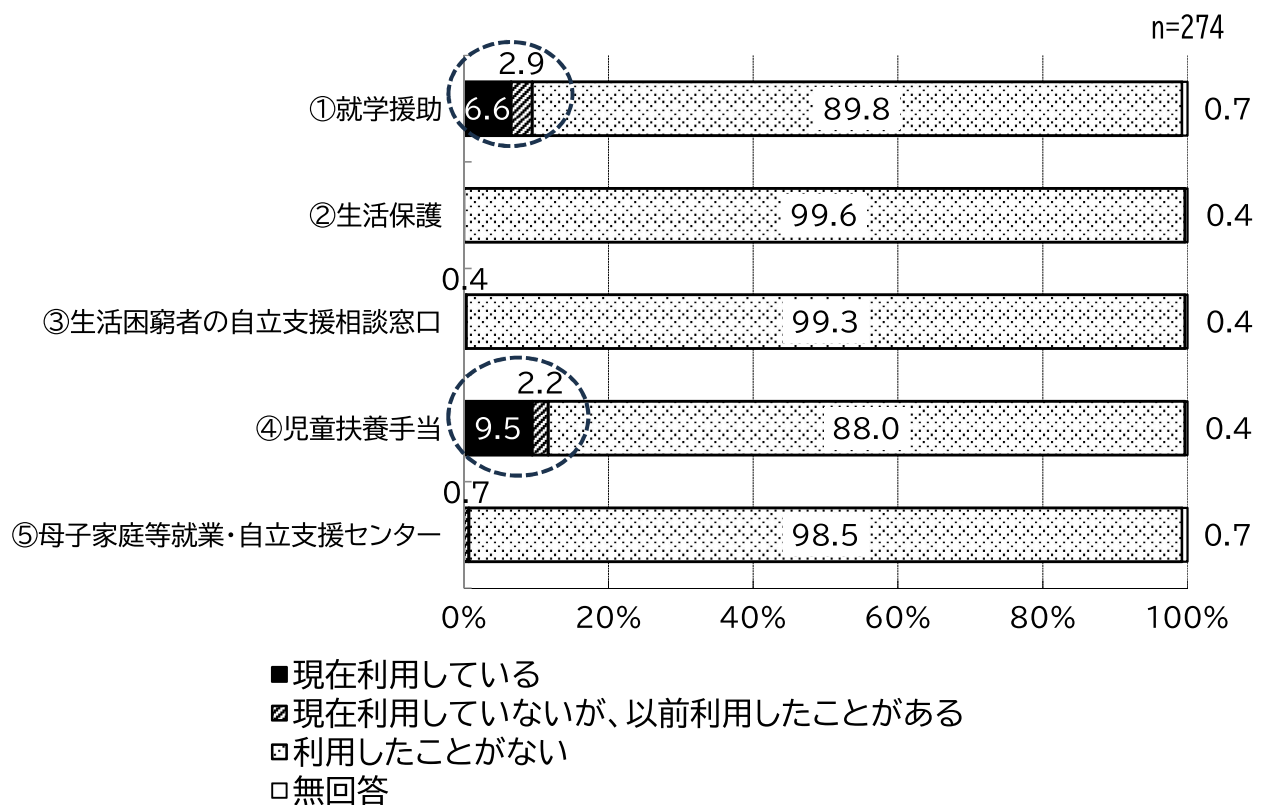
## ⑧過去1年の間に、料金が経済的な理由で未払いになったこと（複数回答可）

「電気料金」が2.6%、「ガス料金」が1.8%、「水道料金」が2.9%となっています。



## ⑨支援制度の利用状況

「現在利用している」と「現在利用していないが、以前利用したことがある」を合わせた割合は、“④児童扶養手当”が11.7%、“①就学援助”が9.5%となっています。



### 支援制度の概要

制度名	概要
①就学援助	経済的理由により子供の就学が困難な場合に、学用品費などを補助する制度
②生活保護	気や失業などにより生活費などに困り、他に方法がないときに一定の援助が受けられる制度
③生活困窮者の自立支援相談窓口	お金、仕事、住宅など、様々な課題を抱えた生活に困窮する方のための相談窓口。専門の支援員が具体的な支援プランを作成し、課題の解決に向けた支援を行う
④児童扶養手当	所得が一定水準以下のひとり親世帯の生活支援のための手当
⑤母子家庭等就業・自立支援センター	県が実施主体となり、母子家庭の母などに対して、就業相談から就業支援講習会の実施、就業情報の提供など一貫した就業支援サービスの提供を行うとともに、弁護士などのアドバイスを受け養育費の取り決めなどの専門的な相談を行う事業